

目次

総長からのメッセージ.....	7
はしがき.....	11
第一部 生涯養成の中心	15
第一章 他者との関わりにおける人間	16
自由な神の似姿として造られた.....	16
個人の優位性.....	18
識別としての生活.....	20
生活は絶えざる成長の場.....	22
第二章 福音としての兄弟共同体	23
主と共にいるように招かれて.....	23
兄弟という賜物.....	24
憐れみの心を持って生きる.....	26
カリスマを分かち合う.....	27
第三章 真の幸いを告げ知らせる兄弟共同体	29
福音の中心.....	29
平和のために働く人.....	30
交わりを育成する要素.....	31
第四章 兄弟共同体：神の国の種子	33
福音宣教：生涯養成の目標.....	33
福音宣教の家であり、学校である兄弟共同体.....	34
小さき者としてすべての人々のもとに派遣され.....	35
対話のうちに.....	36
第二部 生涯養成の実践と計画	39
第一章 日常生活	39

生活を語ることから.....	39
識別のプロセスの中で.....	40
第二章 生涯養成の目標.....	45
一般的目標.....	45
特別目標.....	45
祈りと献身の精神.....	45
兄弟共同体における生活の交わり.....	47
小ささ、連帯、清貧.....	49
福音宣教とミッション.....	50
養成.....	51
第三章 生涯養成の手段.....	53
回心の過程にある人.....	53
全人格を巻き込む養成の手段.....	54
祈りと献身の精神.....	54
兄弟共同体における生活の交わり.....	55
小ささ、連帯、清貧.....	56
福音宣教とミッション.....	58
養成.....	59
第四章 生涯養成の主役と場.....	63
個々の兄弟.....	63
地域の兄弟共同体.....	64
「足を洗う」：院長 (Guardian) の職務.....	64
管区の兄弟共同体.....	66
管区長.....	66
管区の養成学問担当事務局.....	67
管区の生涯養成調整者.....	68
管区長協議会.....	68
会の執行部.....	68
総長.....	68
養成学問担当総本部事務局.....	69

付録 活性化のためのワークシート 71

はじめに.....	71
第一部 ー 第一章 関係性の中での個人.....	73
I. 自由への召し出し.....	73
II. 「傷ついた」自由.....	73
III. 成長の過程.....	74
第一部 ー 第二章 福音としての兄弟共同体.....	75
I. 識別：霊的な知恵.....	75
1. すっかり神と共に生きる.....	75
2. 二つのレベルで生きる.....	75
3. 祈りに忠実に.....	76
II. 慈しみの中で生きる.....	76
第一部 ー 第三章 真の幸いを告げ知らせる兄弟共同体.....	77
I- 平和の働き手.....	77
II- 交わりの育成.....	79
第一部 ー 第四章 兄弟共同体：神の国の種子.....	81
I ー 兄弟共同体：福音宣教の家であり学校.....	81
II- 対話の中で.....	82
第二部 ー 第一章 日常生活.....	83
I- エンマウスの方法論.....	83
II- 兄弟共同体で神の御言葉を祈りを込めて読むこと.....	85
準備.....	85
神の御言葉を読み、傾聴すること.....	86
神の御言葉の内面化と吸収.....	86
お返しすること.....	87
III- 生涯養成と典礼暦.....	87
IV- 生涯養成と時課の典礼.....	90

第二部 ー 第三章 生涯養成の手段.....	91
I- 荘厳誓願宣立後間もない時期の生涯養成.....	91
この時期の特徴.....	91
この時期の生涯養成.....	93
人間的な側面.....	93
キリスト者としての側面.....	94
フランシスカン・カリスマの側面.....	95
養成のための同伴.....	95
II- 高齢期の兄弟のための生涯養成.....	96
この時期の特徴.....	96
進化して行く時期の養成の賜物と義務.....	97
人間的な側面.....	97
キリスト者としての側面.....	98
フランシスカン・カリスマの側面.....	99
養成のための同伴.....	100
第二部 ー 第四章 生涯養成の手段と場所.....	101
I- 院長の養成.....	101
構成単位（管区）や協議会で考えるべき院長の生涯養成の分野.....	101
人間関係の分野、ぜひとも習得するべき能力.....	101
兄弟共同体生活の分野.....	102
個人として自分自身に問うてみること.....	103
共同体として自分自身に問うてみること.....	104
推薦図書.....	105

総長からのメッセージ

「あなたがたは自由を得るために召し出された」(ガラテヤ5:13)という、小さき兄弟会の生涯養成に関する新しい文書のこの表題は、個人としてまた共同体としての真の変革に向かうすべての養成過程の中心を見事に表しています。たしかに、自由があってこそ私たちは、主の霊の絶えざる御働きに動かされ、導かれておられるイエス・キリストの父なる神への信仰と愛に身をゆだねることができるのです。

生涯養成の中心は、おそらく、ナザレのイエスのご生活とみ言葉に示された神の聖なる神秘に自由に心を開くことの中にこそあるのではないのでしょうか？このテーマは、おそらく、恩寵によるすべての賜物によって豊かにされ、このように限りある、しかも壊れやすい私たち人間の心に届くのではないのでしょうか？小さき兄弟のカリスマは、私たちが現在置かれている複雑な状況の中で生かされるべきものですが、それに対する私たちの日々の応答は、私たちの意思に働きかけ、私たちをもっと愛せる人間にしてくれ、それゆえに、私たちが抱えている希望（1ペトロ3:15）について知り、それに意味を与えることができるようにしてくれる過程なしに、忠実で創造的なものであることができるのでしょうか？

私がこれから紹介したいこの文書は、これらの問いかけに満ちています。会の中でこれまで40年にわたり研究してきたおかげで、あらゆる養成の「土壌」（養成綱領108参照）としての生涯養成の重要性に気づくことができました。現代にふさわしい継続的な養成の根本的基盤は明確になっているものの、生涯養成の内容と方法と熱意が新しいものでなければ、フランシスカン生活の現実的で適正な再建はあり得ないということを私たちは理解しました。

現代の奉献生活の刷新はまさに、各小さき兄弟の初期養成段階

から生涯の終わりに至るまでの全く新しい系統的な養成過程の中にこそあると明言することができます（奉獻生活 69 参照）。この基本的な統一がなければ、どのような養成過程も無駄になってしまうでしょう。今後は、これらの系統的な流れに沿って養成を進めなくてはなりません。

この文書がこの点で、特に聖フランシスコの新しい福音的な生き方が教会に承認された 800 年記念を祝おうとしている今、有効な役に立つことを願ってやみません。極めて不安的なこの時代に、フランシスカンのカリスマが表現される手段と言語は、刷新される必要があると同時に、深い急速な変革の時代には真に新しい方法で表現される必要があることを私たちは知っております。私たちはこの変化の多くのしるしを身につけており、それがために信仰の精神と福音的な大胆さを持つことを求められております。

正直言って、私たちの生活が将来どうなるかは、誰にも分かりません。しかし、いただいた賜物に感謝し、その賜物の永遠の価値を確信している私たちは、全く異なる状況下においても、福音的な新しさを絶えず失わずにいる責任があることを表明できます。なぜなら、そうするように聖霊に促されているからです。これらのことにはリスクを伴いますが、同時に新しい、み摂理によるチャンスでもあります。それは、神と兄弟たちへの自由な情熱があるかと私たちに問いかけるカイロスなのです。信仰は私たちを恐れから解放し、十字架に付けられて復活されたキリストという希望において、私たちを深く勇気づけてくれます。

兄弟の皆様、私はこの文書を以上のような気持ちでお贈りしたいと思います。そして、無原罪のマリア、教会となられた処女の庇護と師父フランシスコの祝福を皆様のために乞い求めます。「それは、私たちが、常に聖なる教会の足下に臣下としてとどまり、カトリックの信仰を堅持し、固く約束したとおり、私たちの主イエス・キリストの清貧と謙遜と聖福音を守るためです。」（裁可会則 12:4）

2008年9月17日、聖フランシスコの聖痕の祝日に
ローマ、総本部にて

総長 兄弟ホセ・ロドリゲス・カルバッリヨ ofm

はしがき

養成を生き生きとしたものにするためには、継続的な養成過程が絶対に必要であることは、修道生活において常に言われてきたことです。最近、教会内や会の中でいろいろと検討してきた結果、生涯養成の重要性に対する認識が高まって来ました。私たちの生活のこの基本的な側面を一層私たちに親しみあるものにしてくれた数多くの計画や様々な取り組みが、こうして私たちの兄弟共同体の中に生まれたのです。

自分の成長の主人公である小さき兄弟本人の個性を常に考慮に入れながら、特に生涯養成に対する兄弟共同体の意識を高めるために、近年多くの努力がなされてきました。私たちの間に歴史的・社会的認識があまりなかったために、これまでの養成過程には個人的な側面と共同体的な側面を融和させることが少なかったのではないかと、今日私たちは感じております。一方で個人のことを考えながら、他方で兄弟会と世界のことを考えるとといった具合だったように思います。個人を他者との関係において見るという立場が多くのレベルで復活したことにより、この養成の面で、少なくとも直観というレベルで、成長する可能性が与えられています。

まさに私たちを取り巻く時代の変化によって、人生のあらゆる段階で、また、人が自分の運命を賭けるような多様な人間関係において、その人の人格を変えるような過程を伴う養成というものに取り組むことが急務となっています。特に私たちは今、人類の進歩、あるいはイエスの弟子たちの共同体の進歩を優先して召命を生きるのではなくて、あらゆる言語や人種、文化の人々と共に、真に「現世においては旅人であり寄留の身」¹で生きることの大切さをますます痛感しております。

¹ Rb (裁可会則)6:2

私たちは小さき兄弟として、人々の叫びに耳を傾けながらより断固たる決意をもってこの世を旅していきたいと思っています。「この時代の苦しみと無意味さ、危機と混沌に直接触れてみて分かるのは、現代人の多くが歴史と人間存在と命の意味について自問し、また真の希望とは何かなど、すべてを新たに問い直しているということです。私たち小さき兄弟はこの模索と縁遠い者ではなく、むしろ自分たちを、意味を乞い求める者として現代の他の人々の模索と結びついていることを自認しています」²。この意味を模索する旅路において私たちは決して一人ぼっちではなく、周りには多くの旅する仲間がいること、そして、私たちが生きているこの歴史と文化に意味づけをしようと模索している多くの人々の中には、思想家、芸術家、貧しい人々や疎外された人々の境遇を改善し、共有しようと社会で働いている人々、新しい形の宗教的探究を推し進めている多くの人々がいることを、私たちは認識しています。事実、「教会は自分が人類の歴史と進歩から多くのものを受けたことを知っています」³。

ゆえに、この過程を経たおかげで、私たちのダイナミックな養成過程は、まず自分のことに集中し、それから外の世界に目を開くというやりかたでは実現しないことがますます明らかになってきました。私たちは、同じ信仰を持つ兄弟姉妹と共に自分たちの根本的な召命に応えるためには、この与えられた唯一の場である世界でどう生きるべきかを知らなくてはなりません。養成の中心は、自分の存在を、その賜物と危機と軋轢を備えたまま、とことん生きることであることを認識すべきです。なぜなら、そうした賜物や危機や軋轢を通してこそ、神御自身が私たちに出会い、私たちを静的な成長のモデルから脱皮させ、人間的な変革と成長の過程に置いてくださるからです。

² LSR (2006 年臨時総集会総括文書)6

³ GS (現代世界憲章)44

このような養成の捉え方を受け入れながら、私たちは信仰の現実主義を持って、今起こりつつある文化的な変化を見つめています。このことは、私たちが属する聖フランシスコのカリスマが具現されている様々な大陸や文化圏に、かなり程度の差はあるものの、影響を与えています。私たちの兄弟共同体は、自分を防御する要塞ではないのですから、人々を受け入れるもっと開かれた幕屋であるべきです。しかし現実には、私たちは自分の世界と自分たちの抱える問題にとらわれてしまう傾向があります。だからこそ、人類と世界を信仰の目で見つめる態度が緊急に必要とされているのです。そうすれば、世界は分かち合いの場となり、すべての人間の幸福を願う共通の情熱となって、無条件に奉仕する心が生まれるでしょう。

この歴史の流れの中で、私たちは新たな情熱を持って、個人としてもまた共同体としても自分の生きる時代を、教会共同体の中で聴いた神の御言葉に照らして見極めつつ、また時のしるしを読みながら、私たちに同伴してくれるような体系的な養成の必要性を認めるべきです。そのためには、個人および共同体を成長と変革の過程で同伴できるよう、教育能力を高めることが大切です。その教育学は、外から人々の生活の内面に働きかけるのではなく、むしろ、人々自らが、内面に神が宿るような完全な親密さを生み出すことができるようなものであるべきです。

2007年10月13日から28日にかけてアシジで行われた生涯養成担当者の第二回国際会議は、信仰の視点から時代の変化を見つめ、養成と教育に関する提案について前向きに動こうと努めました。これらはどれも、特に1993年の第一回国際会議の後、会のこの分野における歩みをきっかけとしています。1995年の文書は、最近の生涯養成の理由と実践を深めるのに大いに役立ちました。会議の準備期間中および会議期間中に、より明快な養成計画に対する私たちの意識と努力がいかに高まったかをチェックすることができました。また、何が欠けているか、遅れて

いるのは何かなどにも気付くことができました。会のほとんどすべての管区や分管区から寄せられた多くの意見に耳を傾け、歴史のこの時期に国際的な兄弟共同体が息づいているのを感じました。

以上のことを基盤として、これからご紹介する文書は生まれたのです。会のすべての兄弟の養成のガイドラインを示す「基本的なテキスト」である「養成綱領」に続くものとして、今後の生涯養成の方向づけとガイドラインを与えるべく、本書は総長と総理事會から認可された公式のテキストです。本書は、位置づけとしては法的なテキストでも手引書でもありませんが、その目的は、会の管区や分管区で生涯養成について考え、実践するためのヒントを与えることです。養成担当事務局で仕事をする際に手元に置いておけば、状況判断の役に立つでしょうし、また、管区會議や修道院會議などで、生涯養成の計画を立てたり、「養成綱領」を各構成単位で見直すのにも役立つでしょう。

このように集まり、すべてを調べ、注意することから、生涯養成の歩みを一から出直す提案が生まれました。それは、父なる神の生きた福音にまします私たちの主イエス・キリストから新たに始めるといふ提案です。そうすれば、「靈の聖なる御働き」のうちに、現代の私たちの召命を生き抜くことができ、多くの人が命を豊かに受けることができるでしょう。⁴

アロツツイ・ワロット、ofm
養成学問総本部事務局副局長

マッシモ・フサレリ、ofm
養成学問総本部事務局局長

⁴ ヨハネ 10:10 参照。

第一部 生涯養成の中心

イエスは12人を任命し、使徒と名付けられた。
彼らを自分のそばに置くため、
また、派遣して宣教させるためであった。
(マルコ 3:14)

1. 聖フランシスコはその「遺言」の中で自分の生涯を、主の慈しみと恵み溢れる示しによって導かれた旅路のように回想しています。それは、識別と変革を通して、また、危機と苦しみと困難と不安定さを通して、主イエスとその聖福音に出会うように導いてくれる旅路でした。この旅路において、聖フランシスコは、貧しく十字架に付けられたキリストの完全で熱烈な弟子になりたいとの願いを深めたのでした。

聖フランシスコを見ていると、小さき兄弟の召命である「小さき者のあり方」(forma minorum)は「姉妹なる死」に出会うまでは終わることのない絶えざるプロセスとして描かれています。この死へと至る成長の過程で、兄弟は主の霊によって、聖福音と会則によって導かれます。その福音と会則を、会憲はフランシスカン・カリスマの根本的諸要素を再提案することによって、現代世界にふさわしい形で再び読むようにと促しています。「聖フランシスコの弟子である兄弟たちは、祈りと献身の精神をもって、福音的な生活をラディカルに営まなければならない。そして兄弟的交わりのなかで、悔い改めのあかしと、小さき者であることのあかしを立てる。また兄弟たちは、すべての人に対する愛のゆえに、全世界に福音を告げ知らせ、和解と平和と正義を、行ないをもって説き、被造物に対する大きな敬意を示さなければならない。」⁵

⁵ GGCC (会憲)1:2

第一章 他者との関わりにおける人間

人よ、自分の尊厳をわきまえなさい
(訓戒の言葉 5:1 参照)

自由な神の似姿として造られた

2. 御子によって三位一体の神の似姿に造られた人類⁶は、三位一体の生命に参加するように招かれています。これは、相互の自己奉獻による愛の交わりであり、そこから被造物全体は愛の純粋にして無償の行為によってその源を得るのです⁷。「真の自由は人間の中にある神の像のすぐれたしるしである。」⁸ 御父は宇宙を、あらかじめ選ばれ、キリスト（人となられた御言葉）において造られた人類の責任ある自由に委ねられました。被造物全体は、人類において頂点 (capax Dei) となり、その完成へと向かうのです。⁹神御自身がご自分の造られた人類に自由というものを教えられ、人類は後に自らの過ちによって墮落しました¹⁰。主はしばしば様々な方法で、人類にご契約をお示しになり、また、預言者を通して人類に救いへの望みを持つようにと教えられました¹¹。主は御自分の民を流浪の闇の中で、また、救い主を待ち望む長い期待の中で導かれ、その間、御言葉はイスラエルの人々の信仰の中心となったのです。

この過ぎ越しの旅は、私たちの兄弟となられ、「人間」となられ

⁶ Rb (非裁可会則)23:3a 参照。

⁷ 「魂の神への道程」VI 参照。

⁸ GS (現代世界憲章)17。

⁹ 「魂の神への道程」II 11,12,13 参照。

¹⁰ RnB (非裁可会則)23:2 参照。

¹¹ ローマミサ典書、第四奉獻文

て、「苦しみのうちに」亡くなられ、私たちのために「栄光ある」復活を遂げられた神の愛し子キリストの中に集約されました¹²。すべてのものはキリストを通して、キリストにおいて造られ¹³、そして私たちはキリストにおいて父なる神と他者との新しい関係に心を開く子らとされました。それは、私たちの心に注がれた聖霊のおかげです¹⁴。事実キリストは現実の中心¹⁵であり、「かの書」はこの世の救いのために内側と外側から書かれたものです¹⁶。キリストは私たちの自由であり、すべての人類の願いの成就です。キリストが「栄ある終生処女・至福の聖マリアから生まれ、その十字架と血と死によって捕囚の身である私たちを贖おうと」¹⁷して下さったからです。キリストは罪から、掟の厳しい遵守から、恐れから、そしてあらゆる妨げから私たちを救って下さったのです。それは、私たちがキリストによって、神との十全な交わりに至ることができるためです。

被造物のすべてに浸透しているキリストの霊は、この変革の過程のしるしであり、変革をもたらす重要な要素です。キリストの霊のおかげで、私たちは天の国が現実に存在するしるしを発見することができます。それは、真の幸いの精神で正義と平和と解放のために働くことにより、創造の完成に寄与するためです。キリストは「貧しい人々に福音を告げ知らせ、捕らわれている人に開放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるために」¹⁸ 特別な形で私たちの力を必要としておられます。この世界はまことに救いの場であり、

¹² ここでキリストに使われている形容詞はシエナのベルナルディノの説教から引用。

¹³ エフェソ 1:4 参照。

¹⁴ ローマ 5:5 参照。

¹⁵ 聖ボナヴェントゥラ、Hexaemeron 1.1

¹⁶ 聖ボナヴェントゥラ、Breviloquium II, 11,2.

¹⁷ RnB (非裁可会則)23:3。

¹⁸ ルカ 4:18-19。

そこにおいて創造主である三位一体の神は倦むことなく働かれるのです。

3. 洗礼を受けた人はみな、信徒の共同体全体と共に、キリストの霊の絶えざる御働きが私たち一人一人のためにユニークな形で存在させてくださる救いの歴史の中に生きています。小さき兄弟は、聖性への召命が成就するのは、聖フランシスコの精神に従って福音を生きるようにとの招きにおいてであることを認識する必要があります。それゆえに、生涯養成は個人としてもまた共同体としても、有機的、漸進的、一貫性のある¹⁹ 変革の過程であり、「洗礼による奉獻に深く根ざした」²⁰ 召命の賜物への忠実で創造的な応答のうちに成長することを目的としています。

養成は、個人や共同体の生活の中で神がなさる御働きを尊敬し大切にしつつ、一つの**神秘**として提示されています。主として、それは、愛の熱から人を遠ざけることができる種々の障害から私たちを開放することによって²¹、主の霊の「聖なる働き」を通して私たちの中にキリストの御顔を形成される父なる神の忍耐強い御働きです。様々な手段と方法を経て発展した、養成にふさわしい使徒職とは、このような考え方を基本にして理解されるものです。

個人の優位性

4. 自分自身および他者と被造物と神との関係性を持つ個人²²は、自分の自由を己の生きている具体的な社会的・文化的環境の中で責任をもって行使することにより成長します。唯一でかけがえのない個人としての小さき兄弟は、キリストの自由の賜物をいただ

¹⁹ RFF (養成綱領)52 参照。

²⁰ PC (修道生活の刷新・適応に関する教令)5。

²¹ LG (教会憲章)44 参照。

²² 2001年総評議会2 参照。

いていることを知っています。この賜物は、人生のさまざまな段階で、制約や条件を受けながらも²³、絶えざる成長の過程において主の霊のすぐれた力強い働きのおかげで、発展していきます。そのような過程においては、「福音的勧告に従う誓願生活は、人格の完成にとって妨げとなるものではなく」²⁴神を父として、他者を兄弟として、そして被造物を贖われたものとして見ることを可能にしてくれる変革の過程を開始するのです。そして、関係性の中で新たな生き方を開いてくれるのです。

回心と成熟の日常的な過程においては、小さき兄弟は、自由への忍耐強い教育を通して自分を傷つけた条件から解放されます。彼はその心のかたくなさを解かれ、自由な人となって、自分自身のためだけでなく、他者のためにも愛を持って応えるように招かれています。こうして彼は、キリストの国を人々の魂の中に植え付け固め、それを全地に広めることに貢献するのです²⁵。それは、キリスト者の共同体、文化、社会、そしてそれらの構造が、人類の幸せのためについに内側から変革されるためです。事実、小さき兄弟は、主に属するがゆえに、人々と関係のないものにも、地上の国において無益なものにもならないのです²⁶。

小さき兄弟たちに同伴する養成は、個人や日常生活のあらゆる側面を含むダイナミックな過程を通して、責任ある形で自由を教育することに力を注ぎます。それは、兄弟たちが「聖霊の働きのもとに、自己の養成の主役であり、フランシスカン生活のすべての価値を身につけ、内面化することに責任があり、自主性と進取の能力を持つ」²⁷ようになるためです。確かに、フランシスカン教育の典型は、「福音が要請する徹底性（ラディカリズム）と個人

²³ VC(奉獻生活)70 参照。

²⁴ LG(教会憲章)46 参照。

²⁵ LG(教会憲章)44 参照。

²⁶ LG(教会憲章)46 参照。

²⁷ RFF(養成綱領)40。

の自由と独創性への尊重との間の発展的統合」²⁸を大切にすることです。それは、「彼らが愛の道を霊的喜びをもって進むため」²⁹なのです。

識別としての生活

5. 自分の欲求と必要を持った人は、自分は地球上の様々な文化の中で、常に拡散した期待と願望の中心にいます。フランシスカン的な人間観は、異文化との対話を可能にします³⁰。なぜなら、まず個人を理解することと愛することのできる³¹ユニークでかけがえのない存在として重視しているからです³²。このような観点に立てば、各人は自分が他者との関係に開かれた過程としての生き方へと招かれており、成長を続ける真理、しかも、ひとり占めできない真理³³を徐々に発見するようにと招かれていることを発見するのです。このように考えることで、均質化の試みに対抗して、多様性の豊かさと変化の豊かさを守り、促進することができます。兄弟共同体は、個人としての側面と共同体としての側面をどのように表現するかを学ぶ場なのです。実際、兄弟共同体は、「神の御旨を認識し、受け入れる特権的な場」³⁴を維持しています。

²⁸ RFF(養成綱領)55。

²⁹ LG(教会憲章)43。

³⁰ RS(勉学綱領)74 参照。

³¹ Alexander of Hales: “It is not in awareness but in love that complete peace is found” (完全な平和は気付きの中にあるのではなく、愛の中にある) Summa theological, Tomus IV, Ad Claras Aquas, 1948, p.504.

³² RS(勉学綱領)51,52 参照。

³³ Bl. John Duns Scotus: “The knowledge of truth increases continually in the process of the development of the person” (真理についての知識は、人格の成長に伴い絶えず深まって行く), Ordinatio IV, d. 1, q. 3, n.8(ed. Parisien., vol. XVI, p. 136a).

³⁴ 「権威の奉仕と従順」 20c 参照。

6. 小さき兄弟は、人生の様々な状況において、外的な道德観や掟を守ろうとするよりも、むしろ、どの受洗者とも同じように、キリストの霊によって動かされ、その霊の働きに心を開くように求められています³⁵。それは、「何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえる」³⁶ためです。人間は自分自身の成長を促す教育者となり、自分の人生で自分が何をしたいかを大人として決めることができます。他者との、特に歴史の主との対話と識別に対する開かれた心と、「人間の最奥であり聖所である」良心³⁷が、その人の決定の最終的理由であり続けます。聖フランシスコが兄弟レオに母親のような感性で次のように勧めたのは、まさにこの良心においてであったのです。「どんなやり方にせよ、神である主をお喜ばせし、その御足跡と清貧とに従って行くために、あなたにとって最善と思われることを、神の祝福と私への従順のうちに、行いなさい」³⁸。

小さき兄弟は、選択の自由を絶えず責任を持って行使しつつ、生活を、相互につながりのない「点」の単なる連続として見るのではなく、この世では決して完結することのない、しかも、御言葉に耳を傾け、時のしるしを読みながら、意識的な選択と真剣な識別を必要とする一つのプロセスとして見るのです。このようなプロセスの結果は、フランシスコがポルチウンクラで福音書の朗読を聞いた後に叫んだ言葉、すなわち、「これこそ、私が望み、探し求め、心からしてみたいと熱望していたものです」³⁹から影響を受けています。それは、主が私たち各人と世界のために用意してくださっているご計画にかなうためなのです。

³⁵ ローマ 8:14 参照。

³⁶ ローマ 12:2。

³⁷ GS(現代世界憲章)16。

³⁸ LtL(兄弟レオへの手紙)3。

³⁹ 1 Cel (1 チェラ)22。

生活は絶えざる成長の場

7. 小さき兄弟は「その生涯を通して、人生のどのような時期にあっても、いかなる環境においても、真実と美のかけらから学ぶことに開かれたあらゆる人とあらゆる文化から、自由の中で」⁴⁰成長します。実際に生きる日常生活、環境、歴史的背景こそは、それぞれが人格的成長の過程を味わうことによって召命と使命を生きるための生涯養成の根本的な場なのです。このことは、小さき兄弟が神と人類に対する己の忠実さを表現するように招かれている人生のあらゆる段階と条件に特別の注意が払われるべきであることを意味していると同時に⁴¹、注意深く生涯養成と初期養成の調和をはかる必要があることを示しています。「養成はもはや誓願宣立のための勉学期だけでなく、奉獻生活についての神学的な見方そのものを意味しているといえます。」⁴²

⁴⁰ SAFC(キリストからの再出発)15。

⁴¹ VC(奉獻生活)71 参照。

⁴² SAFC (キリストからの再出発)15。

第二章 福音としての兄弟共同体

兄弟たちはどこにいても、またどこで出会っても
互いに同じ家族の者であることを示すべきである。

(裁可会則 6:2)

主と共にいるように招かれて

8. 「フランシスコの書き物や他の資料からもわかるように、フランシスカン生活の中心は、イエス・キリストとの個人的出会い、すなわち神への信仰体験です。祈り、兄弟愛、清貧、人々との交わりなど、どんな面から出発しても、福音に根ざした生き方の基本は信仰なのです。」⁴³

「主イエスと共にいるように」との招きは、生活と言葉によって福音を告げ知らせることが可能であるような生活環境のことで、小さき兄弟は信仰の賜物を、特に神の御言葉を祈りのうちに奉読する（レクチオ・ディヴィナ）ことによって、また、教会との交わりにおいて祝われる秘跡のしるしの中で働かれる復活された主との出会いと様々な方法で接触する人々との出会いを通して、そして、自然界の美しさと生活体験を通して養います⁴⁴。

これと同じ信仰は、『「他者」との関係における自分自身の神秘を受け入れること』に対して払われる特別な注意に表れています。そうすることにより「個人的また社会的歴史が生きたものに変容し、そこでは祈りと献身の精神が受肉し、識別のわざが学ばれるはずなのです。」⁴⁵ 小さき兄弟は、受肉した霊性を培いながら、信仰の目をもって自分の生活と歴史を読むことを学びつつ、フラ

⁴³ Mad (マドリッド宣言:現代のフランシスコ会の使命) 5。

⁴⁴ RFF (養成綱領)66 参照。

⁴⁵ RFF (養成綱領) 67。

テルニタスの背景と現代の重い皮膚病を患った人への積極的で惜しみない奉仕において、信仰体験を生きるのです⁴⁶。

9. 小さき兄弟はこうして、「共同体の生活においては、兄弟的交わりは固有の使命を果たすための道具にとどまらず、復活した主の隠れた現存を経験するために神に向かう場である」⁴⁷ということを経験します。そして、兄弟的な関係の豊かさともろさを経て、いただいた召命の素晴らしさを認識し、回心の賜物への応答を絶えず確かなものにして行きます。

信仰を深め、健全で成熟した人間関係を育むためには、人生の様々な段階で孤独を受け入れ、それと穏やかに共存する術を学ぶ必要があります。小さき兄弟は、主との生き生きとした自由な出会いの経験において成長する⁴⁸ために、「すべてを越えて、主の霊とその聖なる働きを持つことを憧れ望み」⁴⁹つつ、適切な黙想のための時間と場所を持ちます。このような「兄弟に囲まれた孤独な時間」に、兄弟は自分の個人的生活と共同生活の両面を刷新することに努め、御自分のためではなく私たちのために死んで復活してくださった方のために生きるように導かれます⁵⁰。

兄弟という賜物

10. 生活とその中で起こるすべての善いことは、至高の善にまします神の賜物と理解されています⁵¹。このように考えると、お互いを賜物として与えられていることが、各兄弟の召命の構成要素

⁴⁶ RFF (養成綱領) 68 参照。

⁴⁷ VC (奉獻生活)42。

⁴⁸ RFF (養成綱領) 67 参照。

⁴⁹ Rb (裁可会則) 10:8。

⁵⁰ 2 コリント 5:15 参照。

⁵¹ Test(遺言)1,4,6,14,39 参照。また、聖ボナヴェントウラの「魂の神への道程」VI n.2、1Sent d. 45 a.2q.1 concl.参照。

になっていると言えます。「主が私に兄弟たちをお与えになった時、私が何をなすべきかを教えてくれる人は、だれもいませんでした。しかし、いと高きお方が自ら、聖福音の様式に従って生活すべきことを、啓示してくださいました。」⁵²

兄弟という賜物は、互いに対する温かみを示しつつ、感謝の念で受け入れられるべきものです。人間関係においてさえ消費主義が幅を利かせている文化の中では、小さき兄弟は、無所有を証しする人となるように招かれています。私たちは兄弟たちに奉仕することによって、すべてを至高のお方にお返しするのです⁵³。

神のすべての「夢」と同じように、兄弟共同体は賜物であると同時に、私たちの責任を問う任務 (task) でもあります。持続性のある形で兄弟共同体を築くことは、基本的には予定表や構造とは無関係です。その建設に必要なのは、主の呼びかけに真摯に耳を傾けることです。その呼びかけは、私たちを安全圏から脱出させ、「明晰さと大胆さをもって」冒険のプロセスにいざない、「現在」を共に生きるように与えられた兄弟たちと一緒に、私たちの具体的な現実である「今、ここ」において普遍的な兄弟共同体という理想郷を生きるように導いてくれます。

11. 兄弟共同体は、会の創立当初から、「小さき者たち」によって形成されるものと定義されていました。従って、他者の中に神の姿を見させ、それを受け入れさせてくれるのが、小さき者の態度です⁵⁴。私たちのカリスマの生涯続く現実を生き抜く一つの方法は、物事を操作したり所有したりする本能に負けることなく、物事に存在の自由を与えることに示されています。

この態度は特に、神聖な貞潔の賜物に対する自由な応答を穏やかに生き抜くのに必要な人間関係と情緒面での養成において重要

⁵² Test (遺言) 14。

⁵³ LtOrd (全兄弟会にあてた手紙) 29 参照。

⁵⁴ LSR (2006 年臨時総集会総括文書) 29 参照。

です。その賜物へ明確な形で招くことができるのは、神の愛だけです⁵⁵。小さき兄弟の人生のあらゆる段階で、この賜物に対する応答を新たにし、深めるための適切な方法を見つける必要があります。

憐れみの心を持って生きる

12. 兄弟共同体の賜物を喜び、それを神の国のしるしとして築くように招かれている小さき兄弟は、自分の限界と罪を認めています。憐れみ深い御父によって受け入れられ、愛され、赦されている小さき兄弟は、自分の個人的な弱さを認め、受け入れることと、自分自身および他者を赦すことを学びます。主は、人間の本性と可能性をご存知なので、これらの兄弟たちを通して、彼らがありのままに、自分の可能性を信じて兄弟共同体を建設するように呼びかけておられるのです。現実主義と神学的希望は、召命の成長に不可欠です。

兄弟共同体は、しばしば人間関係の問題をはらみながらも、まさに「憐れみ深くあること」を求められる特別な場であるように思われます。そこにおいては、否定的なことまでもが、成長のチャンスへと変わります。兄弟共同体の状態が不完全であっても、がっかりするには及びません⁵⁶。聖フランシスコの模範と言葉が私たちに問いかけてくれるからです。「ある管区長への手紙」の中では、兄弟共同体の困難な状況は恵みであると書かれています⁵⁷。それどころか、苦しいこと（恵みとは思われないこと）が、管区長に憐れみ深くなる機会を与え、こうして、人が神の似姿として造られたという現実を示してくれるのです。

憐みは、回心の時や方法を他者に押しつけるべきでないこと

⁵⁵ ET（「福音のあかし」1971）13 参照。

⁵⁶ FLC（「共同体における兄弟的生活」1994）26 参照。

⁵⁷ LtMin（ある管区長への手紙）2 参照。

（「まさにこのような仕方で彼らを愛しなさい。そして、彼らがもっとよいキリスト者だったら、と望むべきではありません」⁵⁸）、むしろ、兄弟各人と兄弟共同体の成長のそれぞれのリズムを尊重すべきであることを教えてください。

13. 憎しみや差別や排斥で引き裂かれた世界では、憐れみを願う者、また、まだ憐れみを請うことのできない者にそれを示すこと⁵⁹により、兄弟共同体は、置かれた状況あるいは選択した生き方のゆえに批判や非難、排斥を受けている多くの人々を暖かく迎え入れる場となることができます。それゆえに、生涯養成は「憐れみを持つように養成」することに特別な注意を払うことが求められるのです。それは、聖フランシスコが望んでいるように、兄弟たちを主に連れ戻すことができるようになるためです⁶⁰。

カリスマを分かち合う

14. 「憐れみ深い」態度は、キリストが人類に対してお示しになったように、聖フランシスコが「他者」に接するときを持っていた態度です。ですから、兄弟共同体はそれ自体を、その中で統一と多様性を育む家庭として、また、交わりの学校として提供するのです。現実の現代世界や教会では、他者との出会いを促進するために、宗教的にも文化的にも異なる人々との交わりの精神と協力の精神を高めることが不可欠のように思われます。生涯養成は、絶えず成熟した感性をもって、他者との交わりの精神と協力の精神を高めるのに役立つプロセスを促進するように求められています。その実践にあたっては、フランシスカン家族、教会共同体、その他の機関の人々と善意の人々と力を合わせて働くことが必要

⁵⁸ LtMin（ある管区長への手紙）7。

⁵⁹ LtMin（ある管区長への手紙）8-9 参照。

⁶⁰ LtMin（ある管区長への手紙）10 参照。

です。彼らは人権を促進する支えとなるような人々だからです。⁶¹

⁶¹ VC（奉獻生活）52-54 参照。

第三章 真の幸いを告げ知らせる兄弟共同体

旅人、寄留者として (裁可会則 6:2)

福音の中心

15. 神の国の福音であり種である兄弟共同体は、引き裂かれ、傷つけられた世界で交わりを告げ知らせ、預言する存在でもあり同時に、平和と正義と被造物の尊重へと通じる新しい道への入り口でもあります。小さき者として主の御顔を探し求めながら、兄弟的な交わりと奉仕、殊に小さくされた貧しい人々への奉仕のうちに生きることは、真福八端の精神に照らされた一つのプロセスなのです。

生涯養成がもたらすものはフランスカン生活の成長です。それは、貧しく十字架に付けられたキリストに徹底的に従うことであり、己を捨てて真の幸いの精神に生きたいと願う全教会の絶えざる望みを思い出させるものであるべきです。「この具体的なしるしがないければ、全教会を生き生きとしたものにする愛が冷めてしまい、福音の救いのパラドックスが精彩を欠き、信仰の“塩”がその味を失う危険があります」⁶²。「真の幸いの精神なしには世の姿を変えることも世を神にささげることもしないことをすぐれた方法で証明する」⁶³という特別な務めは、それゆえに、奉獻生活を送る人々に委ねられているのです。

⁶² ET (福音のあかし) 3。

⁶³ VC (奉獻生活) 33。

平和のために働く人

16. 兄弟たちは、聖霊から来る愛によって、まず小さき者として快く、互いに寄り添いながら、学び合いながら兄弟愛をもって仕え、従うように招かれています⁶⁴。それは、交わりの絆を壊すことなく、軋轢に直面し、取り組み、それを解決するためです。従って、兄弟共同体はそれ自体が、養成の主たる場となるべきです。その中で兄弟は真の幸いの精神で、兄弟間のあらゆる形態の不平等や不正を打ち破ることによって、和睦を実現するように助けられます。兄弟共同体はこうして、常に対話の可能な、そして、多様性を調和させることのできる交わりのしるしとして位置付けられます。国際的で多様な文化圏にまたがる兄弟共同体は、この現実を示すしるしなのです。⁶⁵

これと同じ考え方に立つならば、世に出かける時に「神のためにすべての人に従う」⁶⁶兄弟たちは、常に「柔和で、平和をもたらし、慎み深く、温和、謙遜」⁶⁷であるように努めるべきです。こうして彼らは、小さきしもべ⁶⁸としての召命を生き、社会によって宿命とされた生き方をするすべての人々の運命を分かち合いたいとの願いを心に抱くのです。生涯養成は、この絶えざる回心において、小さき者となり、最も小さき人々のまことの兄弟となるための有効な助けとなります。そのためには、現代にふさわしい具体的な形を見出すことが必要です。その形を通して、この連帯感を表明し、正義と平和と被造物の保全を促進し、貧しい人々や弱い人々を抑圧する罪の構造を非暴力の手段で告発して行くのです。

⁶⁴ Rnb（非裁可会則）5:13 参照。

⁶⁵ VC（奉獻生活）51 参照。

⁶⁶ 1 ペトロ 2:13、Rnb（非裁可会則）16:6 参照。

⁶⁷ Rb（裁可会則）3:11。

⁶⁸ Test（遺言）41 参照。

17. 小さきは兄弟たちの周囲との関係にその基盤があります。自分は御父と兄弟たちに従う義務があるだけでなく、神があらかじめ定められた被造物のご計画すべて⁶⁹に対して従う義務があると考えていた聖フランシスコの模範に倣うなら、兄弟たちは被造物の保全に特別の注意を払わなければなりません。人間による環境破壊が恐るべき規模で進んでいる時代にあつては、小さき兄弟は自然界を神からの大切な賜物と捉える姿勢を身につける必要があります。神は自然を守ることを望み、自然を尊重することをすべての兄弟に求めておられるのです⁷⁰。

正義と平和と被造物の尊重を促進するために積極的に働くことの必要性をこれまで以上にしっかりと認識するために、日常生活の中で使える道具はいろいろあります。たとえば、個人として、兄弟共同体として、管区としてのプロジェクトを作ること、生涯養成のプランを立て、それを常に最新のものにして行くこと、修道院会議や管区会議を活用することなどです。兄弟たちはまた、この分野で働くためには、単独行動を取るべきではなく、いと高きお方がフランシスコに生活様式を啓示された⁷¹すべてのフランシスカン家族と、さまざまな修道会と、そして、名称は違ってもこれらのことのために働いているすべての人々と力を合わせて行ふべきであることを知っています。それゆえに、生涯養成は、兄弟たちが小さき者として成長し、J P I Cの活動に意識を向けるように配慮するだけでなく、フランシスカン大家族の内外を問わず、この精神で働くすべての人々と協力することを促進し、支えるものであるべきです。

交わりを育成する要素

⁶⁹ SalV. (諸徳への挨拶) 参照。

⁷⁰ GGCC (会憲) 71 参照。

⁷¹ Test (遺言) 14, GGCC (会憲) 71 参照。

18. 生涯養成の様々なプロセスは、連帯と財貨の運用と兄弟間および周囲との交わりの成長とに特別の注意を払いながら、兄弟たちと共同体とが福音の証しとなるように助け、励ますものです。聖フランシスコにとって労働は、感謝し、受け入れ、実りをもたらすべき「恵み」でありました。いと高きお方にいただいた善きものをお返しするという精神で、肉体労働であれ知的労働であれ、「すべての人に与えられている労働の掟」⁷²に従わなければならないことが認められ、日々の糧を得るためと多くの人々の日々の労苦を分かち合うために「忠実かつ献身的に」⁷³実行されてきました。このようにして、自分の心身の幸せだけを求めようとする傾向を克服することによって、自分の生活と時間を惜しみなく捧げる態度をも身につけることができます⁷⁴。小さき兄弟は、自分の仕事を選択するにあたって、自分の生活する社会の中で最も小さき人々の状況を考慮にいれ、自分が稼いだものはすべて兄弟共同体に渡し、自分のことを気遣って下さる主に信頼して生活します。生涯養成になくってはならないことは、労働の恵みを常に再認識し、持ち物を共同体でまた、貧しい人々と常に分かち合うということを経験することです。⁷⁵ 養成の手段は、交わりの共同体の意味と実践を深めるのに役立ちます。交わりの共同体は自然界にある物を積極的に評価し、連帯の精神でお返しするべき賜物として見ることから生まれ、発展します。

⁷² ET (福音のあかし) 20 参照。

⁷³ Rb (裁可会則) 5:1。

⁷⁴ SAO (権威の奉仕と従順) 3 参照。

⁷⁵ RFF (養成綱領) 24 参照。

第四章 兄弟共同体：神の国の種子

主以外に全能の神はましまさないことを、すべての人に告知らせる
せる
(全兄弟会にあてた手紙9)

福音宣教：生涯養成の目標

19. 世の贖いのために御父から遣わされたイエスは、御心になう者たちをお呼びになりました。それは、彼らを「自分のそばに置くため」⁷⁶、また「二人ずつ」⁷⁷派遣して福音を告知させるためでした。弟子たちは、師であるイエスに従い、イエスの使命を分かち合ううちに、神の国を告知させる者となるように養成されました。

フランシスコは、重い皮膚病を患った人と出会い、サン・ダミアノで十字架上の主に出会い、ポルチウンクラで使徒たちの派遣について書かれた福音書が朗読されるのを聞いて、聖福音の様式に従って生きるべきとの召命をはっきりと示されました。フランシスコは、主からの贈り物として与えられた兄弟たちと共に、神の国の福音を告知させるために遣わされた貧しく、十字架に付けられたキリストの弟子となって、兄弟としてまた小さき者として、教会の中を歩いて行くようにとの招きを聞いたのです。

それゆえに、フランシスカンの福音宣教の中心は、イエスという生きた人格であると同時に名前であり、それが「主の御言葉の告知らせと傾聴をみごとに表しているのです。従って、この名前は秘して隠されるべきものではなく、告知らせられるべきも

⁷⁶ Mk (マルコ) 3:14。

⁷⁷ Lk (ルカ) 10:1。

のです。そして、決してみだらな心と汚れた口での説教の中で告げ知らせられてはならず、大切な器として守られ、広められるべきものです。」⁷⁸

20. 小さき兄弟は、全世界を修道院として⁷⁹、福音を告げ知らせる場所として見えています。彼は、この世の現実を才気に満ちた目ではなく、「思いやりのある」目で見えるように、そして、すべての善意の人々と、自分の生きている現実の中であらゆる肯定的なものを見つけて行くように求められています⁸⁰。神の霊が働かれるこの世界は、生涯養成にとっても適した環境です。私たちはこの世界に、素朴な形で生きて行きたいと願っています。そして、神の目に善しと映る時には、「悪徳と善徳、罪と光栄について」⁸¹話したいと思います。

このような広い視野に立てば、福音宣教は小さき兄弟の回心の全プロセスの目標であり、それゆえに、生涯養成の目標なのです。このミッションは、私たちの生活の単なる「外的な」側面ではありません。「あらゆる召命とカリスマの源である聖霊の働きによって、奉獻生活それ自体が一つの宣教です。イエスの全生涯も同様でした。」⁸²

福音宣教の家であり、学校である兄弟共同体

21. 聖霊の賜物であるフランシスカンの兄弟共同体は、福音宣教の学校である福音に耳を傾けることから生まれました。この学校において、兄弟たちは御言葉の弟子となるように招かれています

⁷⁸シエナの聖ベルナルド「イエス・キリストの栄えある聖名」 Discourses, n. 49, chap. 2.

⁷⁹ SCom (サクルム・コンメルチウム) 63。

⁸⁰ VC (奉獻生活) 73 参照。

⁸¹ Rb (裁可会則) 9:4。

⁸² VC (奉獻生活) 72。

す。事実、「祈りと悔い改めの業に基づくこのような兄弟的交わりは、福音への第一にして、優れて明らかなあかしです。」⁸³ 兄弟たちの最も効果的な福音宣教は、絶えず主の「芳しい御言葉」によって形作られながら、主の霊の働きに身を委ね、主の喜びに満たされて生きる小さき兄弟たちの生活から生まれるのです⁸⁴。小さき兄弟たちは、「いつ主を喜ばせるのか」、福音をはっきり告げ知らせるべき時と方法を知っており、「先に自分が福音化されることを受け入れない限り、誰をも福音化することができないことを知っています。」⁸⁵ 宣教は、兄弟たちが交わりの霊性を身につけ⁸⁶、特に福音宣教の奉仕において⁸⁷、また、表現の仕方の異なる教会共同体との生きた交わりにおいて共に考え、企画し、働く術を学びことによって最大限に生かされます。

小さき者としてすべての人々のもとに派遣され

22. 父なる神は私たちを自由なものとしてお造りになりました。私たちの兄弟イエス・キリストは、私たちを救ってくださり、すべての抑圧された人々のパン種として、神の国を告げ知らせるために私たちを世に遣わされました。フランシスカンの兄弟共同体は、この神の国の到来を生活によるあかしを通して告げ知らせ⁸⁸、聖霊によって動かされた時には、特に私たちの教師である貧しい人々⁸⁹の中にキリストの御顔を認めつつ、福音を告げ知らせます。貧しい人々の間で、彼らのように生きることから、福音の味わいを再発見できるのです。「自分を無にして、僕の身分になられた」

⁸³ GGCC（会憲）87:2。

⁸⁴ VC（奉献生活）45, SAO（権威の奉仕と従順）19 参照。

⁸⁵ GGCC（会憲）86。

⁸⁶ VC（奉献生活）46 参照。

⁸⁷ RFF（養成綱領）89 参照。

⁸⁸ GGCC（会憲）89:1 参照。

⁸⁹ GGCC（会憲）93:1 参照。

⁹⁰キリストは、小さくある者の典型 (paradigm) です⁹¹。これと同じ信仰の霊に促されて⁹²、兄弟たちは「現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみ」⁹³を分かち合うことを学びます。特に「社会の亀裂があるところ」にいる人々の間に生きることを、御自分を完全に捧げられたキリストへの愛のために、選ぶことによって学ぶのです⁹⁴。

対話のうちに

23. 小さき兄弟たちは、キリストに従う弟子として生きる生活と宣教における対話の重要性を認識しています⁹⁵。キリストは、御托身において「神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず」⁹⁶、復活によって死の限界を超え、生涯を通してあらゆる分裂や断絶の壁を乗り越えられました。小さき兄弟たちは、真の適切な信仰告白としての対話を行う態度を身につけながら、己の限界を越えて重い皮膚病を患った人に接吻し、スルタンとの面会に及んだ、すべての被造物の兄弟聖フランシスコを見据えています。

特に神との信仰の交わりから生まれる対話の能力は、被造物、人々、社会、文化、他のキリスト教徒、及び他の宗教を信じる人々との関係に関わるすべてにおいて、小さき兄弟たちが兄弟であり、小さき者であること、平和と和解の作り手であることを特徴的に示すものです⁹⁷。

⁹⁰ Phil (フィリピ) 2:7。

⁹¹ LSR (2006年臨時総集会総括文書) 29 参照。

⁹² 2 Cor (2 コリント) 4:13 参照。

⁹³ GS (現代世界憲章) 1 参照。

⁹⁴ VC (奉獻生活) 90, LgP (2003年総集会総括文書) 44, LSR (2006年臨時総集会総括文書) 33 参照。

⁹⁵ GGCC (会憲) 95, FEGC (全世界をキリストの福音であまねく満たすために) 165-175, LgP (2003年総集会総括文書) 28-32 参照。

⁹⁶ Phil (フィリピ) 2:6。

⁹⁷ VC (奉獻生活) 100-101, RFF (養成綱領) 33, 74, LgP (2003年総集会

24. フランシスカン・カリスマの本質の一部として⁹⁸、対話はまず、兄弟共同体の生活の中で特権的な位置を占めています。共同体の生活は、対話のための現実的な日常の学校であるからです⁹⁹。兄弟的な会話は、各兄弟が自分の中に持っているかけがえのない賜物を発見し、認めるのに役立ちます。各兄弟は、その賜物を兄弟会全体の生活とミッションのために生かすために与えられているのです¹⁰⁰。会の構成単位が多様な現実においては、兄弟たちの文化、国籍、出身宗教などの多様性がこれまでになく重視されています¹⁰¹。

対話の忠実な実践は、心と信仰と召命を絶えず浄化することにつながります。それゆえに、他者の言葉に耳を傾け、穏やかに受け入れ、よく理解することができるようになるための適切な養成と手段の探究は欠かせません¹⁰²。フランシスカンの視点から見れば、信仰が知性に先んじ、知性を支えるという意味で、信仰は知性が神へと向かうのを助ける梯子なのです¹⁰³。ここで大切になってくるのは、小さき兄弟の対話の姿勢を実存的なレベルで（生活の対話、行動の対話）、霊的・知的レベルで（論理的な意見交換の対話、希望の対話）¹⁰⁴、そして、多様な形態の福音化するミッションのレベルで形成することを可能にする養成課程です。

総括文書）28 参照。

⁹⁸ LgP（2003 年総集會総括文書）32 参照。

⁹⁹ RFF（養成綱領）26 参照。

¹⁰⁰ LSR（2006 年臨時総集會総括文書）36,38 参照。

¹⁰¹ RFF（養成綱領）26 参照。

¹⁰² LgP（2003 年総集會総括文書）31 参照。

¹⁰³ この考察は在世フランシスカンの Raymond Lullo (1233-1316)の著作に見られる。そこでは、当時の非キリスト教徒に、人間の知性に全幅の信頼を置いて、福音を告げ知らせることが書かれている。

¹⁰⁴ RS（勉学綱領）70-74 参照。

第二部 生涯養成の実践と計画

この道に従う者
(使徒言行録 9:2)

第一章 日常生活

聖福音の様式に従って生きる
(裁可会則 1:1 参照)

生活を語ることから

25. 生涯養成の背景となるのは、文化的、社会的、政治的な世界に居を構えた地方の兄弟共同体の日常生活の出来事です。それこそが、人が様々な状況¹⁰⁵によって形作られることを学ぶ第一にして最も重要な環境なのです¹⁰⁶。

各地にある兄弟共同体それ自体は、管区や分管区、協議会や会それ自体によって代表されるより大きな関係性のネットワークの中で生活しています。信仰をエンマウスの方法論の精神に従って分かち合うようにとの呼びかけは、ここから来ているのです¹⁰⁷。

「出会うこと、起こった事柄について話すこと、福音の分かち合い・会則の再読、すべての恵みに感謝し、賛美し、祈ること、私たちの生活を変容させた良い知らせを携えて、兄弟共同体の兄弟たちと全世界の兄弟姉妹たちの所に戻ること。」¹⁰⁸ 生活を分かち合う能力がなければ、いくら養成の計画を立てて、それを実行し

¹⁰⁵ SAFC (キリストからの再出発) 15 参照。

¹⁰⁶ RFF (養成綱領) 109 参照。

¹⁰⁷ LSR (2006 年臨時総集会総括文書) 39-47 参照。

¹⁰⁸ LSR (2006 年臨時総集会総括文書) 45。

ても不十分です。個人的レベルおよび修道会レベルでのあらゆる計画は、兄弟愛の実現と参加のプロセスを支える時に初めて役に立つのです¹⁰⁹。

26. 生活を語るのに最も役立つと思われる環境が二つあります。典礼暦を祝い、兄弟共同体で集まりを持つことです。

生活を語ることの最も深い意味は、典礼暦が物語る救いの歴史の中にあります。それゆえに、生活を語ることはすべての人にふさわしい教育課程となります。日々、時課の典礼と聖体祭儀を祝うために集まって御言葉に耳を傾けることは、確かに個人的にも、共同体としても成熟する助けとなります¹¹⁰。

兄弟共同体の集まりは、日々体験したこと、共通の使命、兄弟各人および共同体の喜びや苦しみの分かち合いを基盤として、生活を語る術を学ぶ重要な機会です。このようにして、修道院会議は集まりの場、物語の場、共同体の識別の場、具体的な選択の場となることができます。つまり、兄弟たちが御言葉の祈りを込めた奉読（レクチオ・ディヴィナ）によって活気づけられ、会の優先課題に照らして、生活とミッションを日々選び取って行くための評価と見直しを行うことによって、浄化される場となるのです。

識別のプロセスの中で

27. 小さき兄弟の福音的生活へ向けての養成は、「有機的、段階的かつ一貫性を持った」歩みであり、生涯全体を通して、さまざまな年齢や節目に¹¹¹、個人的・共同体的レベルで展開されます¹¹²。そして、生涯養成は、可能な様々なプロセスを考慮に入れつつ、

¹⁰⁹ LSR（2006年臨時総集会総括文書）51 参照。

¹¹⁰ SAFC（キリストからの再出発）15 参照。

¹¹¹ RFF（養成綱領）117-118 参照。

¹¹² RFF（養成綱領）62 参照。

提供されるものです。

兄弟共同体の日々の生活の流れの中で、いわゆる「生活プロジェクト」は特別に役立つ道具として認められています。それは、個人的レベルと修道院レベルと管区レベルでの召命の成長を促す同伴のために、また、具体的な選択を行う場合に指示を与えるために提供される道具です。このようにして私たちは、自分が聖霊に促され、教会によって認証された「福音的プロジェクト」あるいは「カリスマに基づくプロジェクトのうちに」¹¹³キリストの弟子となるように招かれていることを認識するのです。この中でこそ、生活プロジェクトは役に立つ手段となります。

この枠組みは、生涯養成にふさわしい様々な手段を発展させるためのものです。様々なレベル、すなわち、個人、共同体、管区レベルで、福音宣教とミッションの次元を考慮に入れながら、あらゆる面で行われるべきプロジェクトを作り上げることができるように、その土台となる基本的な方向性を以下に示します。

A. 個人としてのプロジェクト

目標：下記の側面の発展を促すために、召命のプロセスを個人的に支えること。

- 人類学的・実存的側面：生活を自分の手で支え、自分の運命に責任を持つ。
- 心理学的な側面：癒されるために、自分自身を知り、認め、受け入れる。
- 社会的な側面：自分が生活している社会や経済、政治の現実を知り、体験する。
- 召命の側面：イエスの弟子としての生活。
- フランシスカンの側面：兄弟性と小ささを旨としながら、福音の教えに従う。

¹¹³ SAO（権威の奉仕と従順）9。

- 宣教師の側面：神の国とその義を築くために神の御旨を識別する。

B. 兄弟共同体としてのプロジェクト

目標：下記の側面の発展を促すために、兄弟共同体の総合的な成長にを目指すこと。

- 人類学的・実存的側面：世界の建設のために歴史を担い、共同責任を担う人間として、他者と生活を分かち合って生きる。
- 心理学的な側面：コミュニケーション能力および関係性の能力を高める。
- 社会的な側面：自分の生活している現実を福音と貧しい人々を基本にして共に分析し、理解する能力を高める¹¹⁴。
- 召命の側面：召命を支える主力としての共同生活。私たちはイエスの弟子の兄弟共同体である¹¹⁵。
- フランシスカンの側面：私たちの生活様式に不可欠な構造要素としての兄弟共同体と小さくあること。私たちは貧しい人々および平和の作り手の息子、兄弟、しもべとなり、すべての人と連帯するように招かれている。
- 宣教師の側面：私たちは変革し、癒し、神の国を築くために兄弟会によって派遣されて宣教する使命を帯びた兄弟共同体（Fraternity-in-Mission）である。

C. 管区としてのプロジェクト

目標：下記の側面の発展を促すために、管区の計画を支えること。

- 人類学的・実存的側面：カリスマを修道会の中で継続させる（カリスマ的修道会の弁証法）。

¹¹⁴ GGCC（会憲）97:2 参照。

¹¹⁵ Mk（マルコ）3:13-16 参照。

- 心理学的・社会的側面：それぞれにリズムを尊重して進歩するのは管区共同体全体である。このプロセスは、将来が先細りにならないようにするために、未来のために備えて実践する。
- 召命の側面：管区の兄弟共同体は私たちの組織的な帰属を示す基準点である。管区の兄弟共同体において私たちは神の国を告げ知らせるように求められており、障害となる構造を廃棄することによって、歴史の中で解放の道具となるように求められている。
- フランシスカンの側面：管区は会の中で兄弟共同体の一つであり、教会との生きた交わりの中にある¹¹⁶。そこにおいて、私たちは平和を告げ知らせ、正義を打ち立て、被造物の保全を守ることによって普遍的な兄弟共同体を築くために派遣されている。
- 宣教師の側面：管区は自分自身のために生きているのではない。神の国のためにある。私たちの修道院は、この世界であり、世界において私たちは旅人として生きなければならない。貧しい人々こそは、最優先されるべきである。私たちを福音化してくれるのは彼らなのである¹¹⁷。

¹¹⁶ RnB（非裁可会則）序文参照。

¹¹⁷ GGCC（会憲）66:1:93:1:97 参照。

第二章 生涯養成の目標

兄弟たちよ、始めましょう

(1 チェラノ 103)

一般的目標

28. 生涯養成の一般的な目標は、教会と世界中で私たちの主イエス・キリストの福音に従った生活に対する創造的な忠実さの継続的なプロセスを支えることであり、絶えずキリストに従うことを可能にして、「兄弟のすべてが、聖霊の示しにより、現代世界の具体的な状況の中で、聖フランシスコの生き方と会則に従って、常にキリストの後に従うことができるようになることです。」¹¹⁸

「養成綱領」はこの目標を次のようにはっきりと述べています：「フランシスカン生涯養成の基本的な目標は、時と状況が絶えず変化する中であって神の国を建設するために、人間的・キリスト教的・フランシスカンの生活のすべての次元において、本会の精神と使命に向けて、個人としてもまたフラテルニタスとしても、固有の召命への忠実さを奮い起こし、育み、支えることにある。」

119

特別目標

祈りと献身の精神

29. 生涯養成は、自由意思で選び取ったキリストの弟子である

¹¹⁸ GGCC (会憲) 126 参照。

¹¹⁹ RFF (養成綱領) 110。

ことに忠実であろうとするプロセスを支えます。このプロセスは、観想的な態度の成熟を具体的な方法で絶えず助けます。それは、神の現存を歴史と兄弟たちの生活の中に認めるためです。具体的に言えば：

a. 個人的なレベルで

- 小さき兄弟を、深い個人的な信仰体験へと同伴し、絶えざる識別を通して、また、聖霊の働きに気づくために教会の研ぎ澄まされた感覚によって励まされつつ、聖書や様々な出来事の中で、自分の兄弟の中で、また、貧しい人々、聖体、そしてすべての被造物の中でイエス・キリストと人格的に出会えるように導く¹²⁰。
- 典礼暦を、それゆえに秘跡、特に聖体祭儀とゆるしの秘跡を最大限に活用する。
- 神の御言葉の祈りを込めた奉読（レクチオ・ディヴィナ）と、私たちの信仰の姉妹であり、キリストの最初の弟子であり、聖霊に基づく生活の真の師である処女マリアへの学びへと導く¹²¹。
- 人生の様々な段階で、またサバティカルの期間に（たとえば荘厳誓願宣立25年後などに）、兄弟たちを「孤独と観想のための個人的な時間を賜物として、また主との生き生きとした出会いの経験に成長することへの要請として受けとめる」¹²²ように導く。

b. 兄弟共同体のレベルで

- 教会と現代世界の中で、兄弟共同体として共に聖なる者となるようにとの召し出しを表現する手段を見出すことによって、

¹²⁰ RFF（養成綱領）12,66,57; LSR（2006年臨時総集会総括文書）53 参照。

¹²¹ RFF（養成綱領）16 参照。

¹²² RFF（養成綱領）67, 69。

「祈りと献身の精神」¹²³で生活するのに役立つような兄弟的な雰囲気を保つ。

- 祈りを兄弟共同体の中心に置く。特に、聖体祭儀と時課の典礼、キリストによって現実化された救いの秘儀の祝い¹²⁴、ゆるしの秘跡の共同祭儀を通じて。
- 兄弟共同体の中で、定期的に（毎週、毎月など）神の御言葉を祈りを込めて奉読するように兄弟たちを導く。
- 神の民と共に祈りを最大限に活用し、私たち自身のキリスト者としての生活と信徒たちの生活を養うために、民衆的な信心業の健全な形態を育む¹²⁵。

c. 社会的なレベルで

- 歴史と自然界の中に神の現存を見出し、貧しい人々の中にキリストの御顔を見出すために、現代人の希望と不安を聖霊の中で生きておられるキリストの神秘を祝うことの中に位置づけることによって、ばらばらになった世界を観想する見方を養う。

兄弟共同体における生活の交わり

30. 生涯養成は、自由意思で選び取ったキリストの弟子であることに忠実であろうとする歩みを支えます。この歩みは、兄弟的生活を私たちのカリスマの根本的な要素として、またフランシスカン養成の重要な環境として生きるように絶えず助けられます¹²⁶。具体的に言えば：

¹²³ Rb（裁可会則） 5:2。

¹²⁴ RFF（養成綱領）14 参照。

¹²⁵ GGCC（会憲）27:1 参照。

¹²⁶ RFF（養成綱領）70:1 参照。

a. 個人的なレベルで

- 各兄弟が自分自身と他者を心からの思いやりをこめて受け入れることができるよう、人間関係において成長するために¹²⁷、各人の自由を育む教育課程を支える。
- 共同体での対話によって、また、兄弟的な生活の矯正と見直しを通して、兄弟が自分の信仰の歩みを分かち合うように導く¹²⁸。
- バランスのとれた人間的成熟の側面として、他者への礼節と配慮の心を育む。

b. 兄弟共同体のレベルで

- 兄弟共同体の日常生活を生涯養成の基本的な手段として促進する。
- 兄弟共同体とその推進者を、生活と信仰についての対話とコミュニケーション能力¹²⁹および争いを治める能力を身につけるように徐々に教育する。

c. 社会的なレベルで

- 被造物に傷を負わせ、紛争と平和の不在とによって苦しみ、暴力に満ちた世界にあって神の国を告げ知らせることにより兄弟愛の精神を促進する。
- 小ささと単純さ、喜びと連帯の精神において、すべての人々とすべての被造物の兄弟となるように兄弟たちを支える¹³⁰。
- 他のフランシスカン家族のメンバーや信徒、善意の人々と、相互受容と福音的な礼節の精神でフランシスカン・カリスマを進んで分かち合い、様々な形で協力するように兄弟共同体

¹²⁷ RFF（養成綱領）17 参照。

¹²⁸ RFF（養成綱領）73 参照。

¹²⁹ LSR（2006年臨時総集會総括文書）51 参照。

¹³⁰ RFF（養成綱領）21 参照。

を育成する。

小ささ、連帯、清貧

3 1. 生涯養成は、自由意思で選び取ったキリストの弟子であることに忠実であろうとする歩みを支えます。この歩みは、神との関係、兄弟たちとの関係、そしてすべての人々との関係において「小さき者である」ことを再発見するように絶えず助けられます。それは、連帯と平和を告げ知らせるシンプルな生活を通して行われます。具体的に言えば：

a. 個人的なレベルで

- 力も特権もない、もっとも小さな人々の間で、貧しさと謙遜さ、柔和さの中に平和に生きるために¹³¹、傾聴する能力と、対話し被造物を保全する能力を持って、小ささを自分の召命の不可欠の要素とするように育まれる。
- 兄弟共同体を維持し、持っているものを貧しい人々や困窮した人々と分かち合うために、肉体労働と勤勉で真面目な知的労働を通して、物品の使用において単純かつ真に貧しくあるように養成する¹³²。

b. 兄弟共同体のレベルで

- 兄弟共同体の中で正義と平和を実践する。特に、人間関係において、非暴力で質素で、エコロジカルな連帯の生き方を日常生活で証しする。
- 地域の兄弟共同体および構成単位で、現代の貧しい人々の間において、活動的で祈りに満ち、明白で、つつましく、喜び

¹³¹ RFF（養成綱領）22 参照。

¹³² RFF（養成綱領）24 参照。

に満ちた存在を通して、彼らとの実際に分かち合いの体験を促進する¹³³。

c. 社会的なレベルで

- 貧しい人々を明白に優先することによって養成する。つまり、もっとも小さな人々の声に耳を傾け、さまざまな形態の貧困と疎外の原因について自分に問いかけるように教育される。
- 兄弟たちが社会において、平和の作り手となり¹³⁴、和解の道具¹³⁵となるように養成する。
- 声なき人々が様々な形態の不正を乗り越えることによって、声を出すことができるよう、分かち合いと連帯の具体的な方法を実践するように養成する。

福音宣教とミッション

32. 生涯養成は、キリストの弟子であることに忠実であろうとする歩みを支える。この歩みは自由意思によって受け入れられ、教会と共に生活と言葉によって福音を告げ知らせるといふ会の固有の召命を成熟させるように絶えず助けられる。具体的に言えば：

a. 個人的なレベルで

- 神とすべての人、特に最も貧しい人々や苦しんでいる人々、希望を奪われた人々に対する熱意を各兄弟の心に育む。
- 各兄弟の持っている賜物を、カリスマ的であり、種々多様な会固有のミッション¹³⁶に取り入れ生かすように励ます。
- フランシスカン・カリスマに従って教会のミッションに参加

¹³³ RFF（養成綱領）82 参照。

¹³⁴ GGCC（会憲）68 参照。

¹³⁵ GGCC（会憲）80 参照。

¹³⁶ LSR（臨時総集會総括文書）38 参照。

することにより、教会と忠実かつ積極的に交わるような精神を兄弟各人の心に育む¹³⁷。

- 自分がそこで生きている人々の価値を認め、尊重することを通して、具体的な文化環境で自分の召命を生きるように教育する¹³⁸。

b. 兄弟共同体のレベルで

- 兄弟共同体を、その中で各兄弟が福音を生きる場所として認識する。各兄弟は兄弟共同体の名で使命を遂行し、他の兄弟たちをその使命に参加させるように招かれている。¹³⁹
- 兄弟共同体が地方教会の中で、教会の証しの成長に寄与することによって、独自のカリスマを生きるようにする。
- 会の国際的な側面に従い、私たちのカリスマにふさわしい海外宣教への召命を適切な手段で育む。

c. 社会的なレベルで

- 様々な社会的・文化的環境の中で福音を告げ知らせるために、現代の人々との対話とコミュニケーションを深める。
- 世界で起こっている変化に気づくように努め、自分の地域環境で活動しながら、歴史をグローバルな視点から見るができるよう、人々の価値観を批判精神をもって判断する。
- 教会と世界で起こっている新しい事柄を知り、認めることができるように、そして、それらを福音的な大胆さで受け入れることができるように心と頭を柔軟に保つ。

養成

¹³⁷ RFF（養成綱領）31 参照。

¹³⁸ RFF（養成綱領）33 参照。

¹³⁹ RFF（養成綱領）19 参照。

33. 生涯養成は、自由意思で選び取ったキリストの弟子であることに忠実であろうとする歩みを支えます。この歩みは、兄弟共同体、地域、管区の生活の様々な段階でそれぞれの特徴に沿って、個人の全人的な成長を助けます。具体的に言えば：

a. 個人的なレベルで

- 自由というものを意識しながら、人間として、キリスト者として、フランシスカンとしての成熟に向かう人生の様々な段階で行う福音的な選択に忠実であるように導く。
- 内面の気づきを促し、人生の様々な段階での個人的な同伴、および特定の時期での心理的な健康面のチェックと回復を促す。

b. 兄弟共同体のレベルで

- 養成というものは、さまざまなレベルの共同体全体に関連し巻き込むものであって、単に個々人のレベルに留まるものではないことを兄弟たちに気づかせる。
- 兄弟たちの身体的、精神的、心理的および召命に関する不安を和らげ、その道のりに同伴する。

c. 社会的なレベルで

- 私たちがその中で寄留者として旅人として生きるように招かれている社会的・政治的・経済的・文化的・宗教的現実にもっと心を開くように、考え方においても実践面においても養成することをめざして同伴する。

第三章 生涯養成の手段

イエスはこの上なく愛し抜かれた
(ヨハネ 13:1)

回心の過程にある人

34. 各兄弟の成長のためになる一番の場所は、自分が他者と自分の置かれた環境とに関わりながら活動をする日常生活です。その主たる手段は、自分の才能を生かしつつ、危機や争いを伴う自分の具体的な生活をとことん生き抜くことです。そうすることによって、神御自身が私たちに会うために来て下さり、私たちを変容させ、人格的に成長するようにして下さるのです。

生涯養成にふさわしい手段とは、私たちを「全生活を巻き込んで行く、絶えざる成長と回心の道」¹⁴⁰に置いてくれる生き生きとした活動であり、それにあたっては、小さき兄弟が自分の兄弟共同体と共に、その時代の人々との対話のうちに生きる現状と具体的な状況を考慮に入れることが大切です¹⁴¹。

35. 地域の兄弟共同体の日常生活は、そこに生活する人に影響を及ぼし、変えることを心から望む生涯養成の第一の手段です。そのほかに、戦略的な手段（さまざまな独創的手段、計画など）もあります。それらは、生涯養成のプロジェクトによって、各人や兄弟共同体の現状やニーズ、資質などを考慮に入れながら作成するために研究が続けられています。主体は常に人生の様々な段階にある小さき兄弟であることを心に留めながら、日常生活とい

¹⁴⁰ RFF（養成綱領）2。

¹⁴¹ RFF（養成綱領）33 参照。

う基本的な手段を戦略的な手段と関連付けることが必要です。

全人格を巻き込む養成の手段

36. まず、「心を目指す手段」というものがあります。それは、人間として、修道者として、また召命の面での成長が、考え（アイデア）を新たにするだけでなく、何よりも「他者に耳を傾けたり、自分の考えを述べたり、これまでの成果を反省し評価したり、一緒に考えて計画したりする」¹⁴²ことを学ぶことによって、心を変えることを必要とする瞬間から始まります。

「頭と心を照らすことを目指す手段」には、批判精神をもって、新しい文化的環境や考えや、人類学的・神学的基礎や、社会で起こっている変化に対してオープンであるために必要な知性と知識が含まれます。現実世界の体験と貧しい人々との出会いの体験は、この種の関わりになくしてはならないものです。

「手と足を目指す手段」は、それでもって小さき兄弟が新たな能力を活用するべきものですが、自己の本当の姿を制御する術を学んだり（己を知ること）、兄弟的生活を営む能力を用いたり（コミュニケーション、人間関係、争いの解決、相互受容、共同プロジェクトやミッションの実践など）、ミッションに備えたりするために必要です（専門的能力）。

すでにいくつかの手段は五つの分野に分けられ、それぞれの目的別に提示してあります。系統的で刷新された養成に緊急に必要なと思われるいくつかの手段は、特別な形で次に示します。

祈りと献身の精神

37. 祈りと献身の精神を本当の意味で最優先するためには、次

¹⁴² FLC（共同体における兄弟的生活）34。

のことが前にもまして重要となります：

- a. 兄弟たちが個人の祈りの生活を刷新し、実践することによって、深い祈りの体験を生きるように導く；
- b. 真正な典礼的精神を養うことにより¹⁴³、神学および典礼暦の祝い方と秘跡の執行について特別な養成を授ける；
- c. 司教協議会の指示に従い、ゆるしの秘跡を共同体として祝うように促進する；
- d. 共同で神の御言葉を祈りを込めて奉読するために、兄弟共同体にガイドを与える；
- e. 神学を、キリスト者及びフランシスカンの偉大な教科書である聖書、教会の公の教え、そして他の宗教や文化からもたらされる考えに照らして、深く研究する能力を養うことにより、神学面での適切な養成を促進する；
- f. 管区レベル、協議会レベル、会のレベルでサバティカル期間を組織する（たとえば、誓願の記念日に、年齢別や仕事別などに）；
- g. 生活プロジェクトの一環として選ばれた兄弟的生活のリズムを考慮しながら、典礼暦に合わせて瞑想や黙想会のための時間を設ける。

兄弟共同体における生活の交わり

38. 共同体における兄弟的生活が本当の意味で養成の継続的なプロセスを生かす環境となるためには、次のことが前にもまして重要となります：

- a. 対話と生活の分かち合いを促進するために、適切な手段を用いて、「エンマウスの方法論」の精神と実践を勧める；
- b. 院長の職務に就く兄弟たちに、管区レベル及び管区間レベルで、

¹⁴³ RFF（養成綱領）68 参照。

各修道院における生涯養成を活性化させる務めに鑑みて、特別な養成の期間を与える¹⁴⁴；

- c. 各修道院で生涯養成の計画と評価を行い、生涯養成の発展のために必要な手立てを講じる¹⁴⁵。特に、管区／分管区の生涯養成の三ヶ年計画に沿った年間プロジェクトの見直しと評価を通じて¹⁴⁶。それを、修道院会議や兄弟たちとの反省会、意見交換会、対話などで保証する第一責任者は修道院長である¹⁴⁷；
- d. 兄弟共同体がそれ自体のあり方を見出し、その生活を分かち合い、評価し、計画するのを助けることができるような修道院会議や家族会議を定期的かつ有効に行うために必要な専門知識を提供する；
- e. 兄弟たちや兄弟共同体を、兄弟的矯正と生活の見直し¹⁴⁸の時間が持てるように、また、争いに対処し、それを解決するように養成する；
- f. 「真の兄弟会に集い」、人間として、キリスト者として、修道者として、完全に成熟してゆくのを助けるような¹⁴⁹共同のレクリエーションや体験の場を設ける。

小ささ、連帯、清貧

39. 現代世界の状況は様々で複雑なので、世界を観想的なまなざしで見つめ、神をどこでも、すべての人の中に見る¹⁵⁰ことのできるような福音的な識別力をもって、時のしるしを批判的な目で

¹⁴⁴ 1981年総評議会 51、RFF（養成綱領）120 参照。

¹⁴⁵ GGCC（会憲）137:3、GGSS（総則）2:2、10-11、RFF（養成綱領）67 参照。

¹⁴⁶ RFF（養成綱領）116 参照。

¹⁴⁷ RFF（養成綱領）65 参照。

¹⁴⁸ RFF（養成綱領）73 参照。

¹⁴⁹ GGCC（会憲）39 参照。

¹⁵⁰ RFF（養成綱領）111 参照。

読み、解釈する能力¹⁵¹が求められます。それゆえに、次のことが前にもまして重要となります。

- a. 個人として、また共同体レベルで、J P I Cにふさわしいテーマを掘り下げ、それを、信徒や、さまざまな文化的、経済的、社会的分野で関わり、他のキリスト教派や他宗教、文化的伝統を持つ善意の人々と連携し、協力して実践する手段を講じる¹⁵²。
- b. 修道院会議で作成する生活プロジェクトにおいて、貧しい人々や苦しむ人々、この世で忘れられている人々を優先的に選択すること、正義と平和と被造物の保全と連帯のために働くことを考慮に入れる¹⁵³；
- c. 生涯養成の共同体のプロジェクト（三年計画、一年計画など）において、J P I Cにふさわしい活動に参加したり、他の管区や分管区、教会組織、民間組織などと協力する機会を提供する；
- d. 不正が生みだす構造を変革するために、フランシスカン家族の他のメンバーや善意の人々と共に、J P I Cの活動（たとえば、被造物の保護、エコロジー危機への配慮、水資源やエネルギー問題、リサイクル運動、基本的人権擁護運動、人身売買の撤廃、女性や子供の尊重、暴力と戦争の拒否、紛争の解決、和解の促進）に参加するよう促す；
- e. 兄弟たち、特に修道院長と会計係を、財貨の管理と使用の透明性に向けて、特別なミーティングや助言を通して、また、分かち合いやお返しの実践を通して養成する¹⁵⁴；
- f. 異なる文化、宗教、信仰を持つ人々と共に生きるために、小さき者として他者と出会うために対話の技術を高める適切な手

¹⁵¹ RFF（養成綱領）32; 106,1c; 22; 240 参照。

¹⁵² RFF（養成綱領）239 参照。

¹⁵³ RFF（養成綱領）237 参照。

¹⁵⁴ RFF（養成綱領）81 参照。

段を提供する；

- g. 兄弟たちや兄弟共同体が自然界を尊重し保全するようなエコロジカルな生活様式を選択するように、集まりや方法を計画する¹⁵⁵。

福音宣教とミッション

40. 私たちの召命の宣教師的な側面とは、ごく普通の兄弟的生活であり、それは聖霊によって自分を越えて世界へと向かうように押し出されています。兄弟共同体と福音宣教を一体とし、**諸国の民への (ad gentes)** ミッションを果たすための適切な手段は、さまざまなレベルで（個人のレベル、修道院レベル、管区レベル、管区間レベル、国際的レベルで）考えられなければなりません。すべての兄弟は、司祭の兄弟もブラザーの兄弟も、ミッションにこれまで以上に強い絆で協力するために、教会の交わりの霊性を身につけるように養成されなければなりません。それゆえに、次のことが前にもまして重要となります。

- a. 「福音が我々の時代の具体的現実のなかで生きたものになるために」¹⁵⁶、また、兄弟たちが変化する文化環境に気づき、自らを知恵と預言をもって世界の現実と現代の教会が必要とする現実の中に置くために、教義的な面からも、実体験的な面からも必要な能力を身につけること；
- b. 主要な福音宣教の奉仕の場と、日常的で宣教師的な司牧活動に信徒を参加させるように促進すること；
- c. 兄弟たちに会の**諸国の民への (ad gentes)** ミッションについて教え、人生の様々な段階で宣教師としての体験をする機会を与えること¹⁵⁷；

¹⁵⁵ GGCC（会憲）71；LgP（2003年総集会総括文書）提案39参照。

¹⁵⁶ RFF（養成綱領）119参照。

¹⁵⁷ RFF（養成綱領）91参照。

- d. 小さき兄弟の霊性面・教理面・職業面での能力を発展させ、時代に適応させ、成熟させるようにし、彼が自分の召し出しである職務を、現代の有能かつ適切な方法で遂行することができるようにする¹⁵⁸。

養成

4 1. 養成が小さき兄弟をその全生涯にわたり影響を及ぼす形で同伴するためには、次のことが前にもまして重要となります。

a. 人生の様々な段階で同伴すること

4 2. 人生の様々な「節目」と兄弟たちが行う様々な使徒職は新たな応答を必要としています¹⁵⁹。同伴と様々な養成の必要性が生まれています。なぜなら、状況に応じて、必要とすることも、可能性も、挑戦も変わるからです¹⁶⁰。従って、生涯養成はその内容においてもまた提案においても、万人向きというわけに行かず、また、生涯の特定の時期に限るわけにも行きません。むしろ、生涯の時期に応じて段階別の対応があるべきですが、テーマにおいても教育的選択においても、共同体全体の養成課程の本質的な統一性は保持しなければなりません。

4 3. それゆえ、管区間レベルにおいても、人生の様々な段階に応じたプログラムを作ることが前にもまして必要となっているのです¹⁶¹。たとえば、

- a. 荘厳誓願宣立や司祭叙階直後の時期における同伴。この段階は、特別な注意を必要とする。中でも、同伴のための計画を作り、

¹⁵⁸ RFF（養成綱領）112 参照。

¹⁵⁹ RFF（養成綱領）117 参照。

¹⁶⁰ VC（奉獻生活）70 参照。

¹⁶¹ RFF（養成綱領）118 参照。

具体的な方法とふさわしい兄弟を探すことが大切。

- b. 中年期における同伴。この時期は、召命が成熟し、さまざまな兄弟的・司牧的奉仕に携わる時期であり、個人主義と孤立化の傾向がみられ、さまざまな疲れや依存もみられる。また、感情が希薄になりがちな時期でもある。いずれも、召命の選択に迷いが生じる可能性がある¹⁶²。
- c. 高齢者と病人の同伴。「高齢者」の兄弟と病気の兄弟には、特別の配慮が必要¹⁶³。人生のこの時期には特有の問題があるので。
- d. 過渡期や危機にある時（職務や場所が変わったり、健康や生活に問題が生じた時など）の同伴。福音的な識別力をもって、兄弟たちの「傷」を読み取り、気づくこと。そして、神の御言葉に照らして彼らの歴史を読み返し、物語るのを助け、さまざまな個人的同伴を行う。たとえば、堅苦しくない集まりを設けるとか、心の状態や希望や夢や期待を分かち合うなど。
- e. 企画として設定された同伴。さまざまな時期に修道院長や管区長と話し合いながら生涯養成の個人的な計画を立てる。それは管区全体や地域修道院の計画の枠内で行われ、各兄弟の年齢、仕事や職務、生活環境、召命などを考慮する¹⁶⁴。

b. 知的養成のための配慮

4.4. 「光とすべての人間の真理の源である神について知識を深めたいという飽くなき欲求の現れとしての勉学は、すべての小さき兄弟の生活と養成（生涯養成であれ、初期養成であれ）の基本です。」¹⁶⁵ この意味で勉学は、無償の側面を持っています。私たちの伝統の典型である「美の道」(via pulchritudinis) を通しての総合的な人格形成のために、研究や読書、音楽や美術を楽しむこ

¹⁶² NF (修道者の養成のための指針) 70, 1999年; RFF (養成綱領)93 参照。

¹⁶³ VC(奉獻生活)44, LSR (2006年臨時総集会総括文書)55 参照。

¹⁶⁴ GGCC (会憲) 137:1 参照。

¹⁶⁵ RS (勉学綱領) 3。

とへの関心を持つように兄弟たちを励ますことが必要です。さまざまなレベルで勉学や、神学的・司牧的、技術的・専門的な知識を深めることは、絶えず個人的・兄弟的・社会的識別を続ける上で欠かせないことです¹⁶⁶。多くの国々や文化圏に兄弟たちがいることにより、こうした知識を深めることがますます緊急に必要となっています。福音書に照らして、諸文化を知り、評価し、促進する必要がありますが、それは、対話能力を育むのに不可欠だからです¹⁶⁷。

- a. 会の知的伝統は、現代に明らかになったことも含めて、「フランシスカンの先達の文化的・霊的遺産を自分のものとし、彼らに注意を集中して、彼らの声が現代世界に響き渡るようにする」¹⁶⁸ためのこの道筋をつけるために有効な基準点である。
- b. 会の研究センターは、フランシスカン家族や他の教会の組織とも協力して、兄弟各人と兄弟共同体をこの総合的な養成に向けて力を尽くすように支え、特に生活や使徒職のあり方が変わるこの時代において、知的・技術的・科学的・神学的養成を通じて新しい言語を学ぶように支えるべきである¹⁶⁹。
- c. その他、養成担当者や教師、さまざまな専門分野（たとえば、聖書、神学、典礼、教会の社会教説、哲学、法律、フランシスカン作家たちの書き物、フランシスカン霊性、心理学、社会学など）に精通している兄弟の養成を促進することも重要である¹⁷⁰。
- d. 養成計画の中で、新聞や書物、物語、詩などを意識して批判的に読む傾向を最大限に活用することは以前にもまして重要になっている。さまざまなレベルでフランシスカンに関する

¹⁶⁶ RS（勉学綱領）32。

¹⁶⁷ RS（勉学綱領）16 参照。

¹⁶⁸ RS（勉学綱領）17。

¹⁶⁹ RS（勉学綱領）34-35。

¹⁷⁰ GGCC（会憲）142 参照。

文献及び専門的な神学の文献を新しくしておくことと、新しい言語の習得に必要な真剣さを、この目的のために奨励すべきである。

- e. 地域の兄弟共同体や管区の兄弟共同体の生涯養成プログラムの作成と実現に、また、地域の教会や他の修道会の同様の取り組みに積極的に参加することが必要である。
- f. 生涯養成のプロジェクトは福音宣教事務局と J P I C 担当室との協力のもとに作成されるべきである。

第四章 生涯養成の主役と場

兄弟たちは互いに従うべきである (非裁可会則 5:14)

45. 生涯養成のプロセスは所定の目標を目指すことで、各兄弟および兄弟共同体の「創造的な忠実さ」¹⁷¹を活性化し支えますが、それは、会憲が定める養成責任者¹⁷²の奉仕によって行われます。各兄弟は最終的で決定的な責任を持ちます。また、地域の兄弟共同体と管区の兄弟共同体は生涯養成の主要な場です。管区長および修道院長は日常生活を活性化させる責任があります。

個々の兄弟

46. 「ひとりひとりの兄弟は、最終的で決定的な責任を持つ者として、自分の生涯養成のために配慮し、実行していく責務を持つ。」¹⁷³ 「小さき兄弟は、聖霊の働きのもとに、自己の養成の主役であり、フランシスカン生活のすべての価値を身につけ、内面化することに責任があり、自主性と進取の能力を持つ。」¹⁷⁴

ひとりひとりの兄弟は、「日々の回心」のプロセスにおいて神の賜物に応えるために、生涯養成において「自由と創造的忠実さ」の間に生じる緊張を受け入れなくてはなりません。この意味で、養成のプロセスは、兄弟がその必要を自らしっかりと認識し、時期や手段や状況を把握できるようになるにつれ、刷新と絶えざる成長への傾向を促すように求められていると言えます。

¹⁷¹ VC (奉獻生活) 37 参照。

¹⁷² GGCC (会憲) 137-139 参照。

¹⁷³ GGCC (会憲) 137:1。

¹⁷⁴ RFF (養成綱領) 40。

生涯養成の主役としての兄弟の責任は、自分の兄弟たちとの分かち合いと共同責任に進んで参加することです。

地域の兄弟共同体

47. フランシスカンの兄弟共同体は、兄弟が私たちの主であり師であるイエスの模範に倣って、互いに「足を洗う」¹⁷⁵ことに示された福音の約束に従って生きることを学ぶ場なのです。「だれも院長（プリオール）と呼ばれてはならない。皆おしなべて小さき兄弟と呼ばれるべきである。そして、互いに足を洗い合わねばならない。」¹⁷⁶「共同体そのものが生涯養成の主要な場であるので、個々の兄弟、そして先ずもって修道院長は、共同体の通常の生活が養成としての役割を果たせるように誠心誠意、配慮する。」¹⁷⁷

「すべての個々のフラテルニタスにおいて兄弟たちは、信頼の雰囲気を作り上げる責任を持っている。そこでは、すべての兄弟が自由に自分の必要なもの、思っていること、感じたことを言うことができる。兄弟たちが、意思疎通や対立を解決する能力、フラテルニタスを築き上げる能力を促進することは大切なことである。もし適当であると思われるなら、専門家の力を借りることも奨励される。」¹⁷⁸ そのために、修道院会議が共通の召命に応え、また、共同体の生活を取り囲む教会的・社会的環境の期待と希望に応じて、集まりと対話、識別と決定、分かち合いと成長の特別な場となるのです。

「足を洗う」：院長（Guardian）の職務

¹⁷⁵ Jn（ヨハネ）13章参照。

¹⁷⁶ Rnb（非裁可会則）6:3。

¹⁷⁷ GGCC（会憲）137:2。

¹⁷⁸ RFF（養成綱領）115。

48. 服従される立場にある院長は、共同体の兄弟たちの生涯養成を促進する義務があります¹⁷⁹。権威の奉仕は厳しくもあり、時に争点ともなる職務です。その職務には、それゆえ、活気を与え、提案するなど絶え間ない存在が要求され、フランシスカン生活そのものを思い起こさせます。また、上長にゆだねられた者たちが、つねに刷新された忠実さで聖霊の招きにこたえることができるように手助けすることもその役割です¹⁸⁰。その職務の主な特徴は、「霊的な」権威となることです。つまり、「共同体を形作る一人ひとりに与えられるさまざまな賜物を通して、会のカリスマに基づく計画のうちに、聖霊が実現したいと望まれることに仕える」¹⁸¹ことです。

院長の福音的奉仕は、すべての兄弟の具体的な参加を促し、確かなものにするために、交わりの霊性を促進することです。それは、「表明された従順を無にしない」¹⁸²ため、一人ひとりの尊厳を尊重し、困難のただ中であって勇気と希望を奮い立たせるために¹⁸³必要です。

院長は、生活プロジェクトに助けられながら、傾聴と対話、提案と識別、相互の助け合いを通して、すべての兄弟を兄弟的生活の日常的なプロセスに参加するように促さなくてはなりません。それは、争いを解決し、危機にある兄弟たちを助けるためなのです。院長は、記念日や祝日、誕生日、兄弟共同体の生活にとって特別な日に、兄弟的な意味での自由時間を作り、それを最大限に活用すべきです¹⁸⁴。兄弟共同体は、その生活を常に神のご計画と比べることができなくてはなりません¹⁸⁵。それは、それらの時間

179 SAO（権威の奉仕と従順）13g、PCO81,51、RFF（養成綱領）120 参照。

180 SAFC（キリストからの再出発）14 参照。

181 SAO（権威の奉仕と従順）13a。

182 VC（奉獻生活）43。

183 SAO（権威の奉仕と従順）13d 参照。

184 RFF（養成綱領）120 参照。

185 SAFC（キリストからの再出発）14 参照。

を通して、「神の聖にして真の掟を実行する」ためです。

管区の兄弟共同体

49. 「適切な養成を行うために、管区共同体は、自分たちが養成共同体であることを自覚する。実に、生活の模範として、管区の全兄弟の生活はすべての人々の間にフランシスカンの理想を広める上で非常に重要である。」¹⁸⁶

個々の構成単位は、それぞれの会議において、独自の生涯養成プログラムを作成し、それを毎年、特に生涯養成と初期養成の連続性およびそれに共同責任をもって関わる可能性のある最大限の人数の兄弟や共同体のことを考慮に入れながら¹⁸⁷、見直し、提案する義務があります。

管区長

50. 管区長/分管区長は、管区/分管区における生涯養成の主要で不可欠の推進者です。¹⁸⁸彼らは生涯養成のために働くすべての兄弟を励まし、鼓舞します。そして、承認を得たプログラムが実行されることを保証します¹⁸⁹。この意味で、「彼らは最初の従順なものとなるように呼ばれている」のです¹⁹⁰。

管区長/分管区長は、管区/分管区の兄弟共同体の各兄弟と継続性のある暖かい関係を保つことによって¹⁹¹、殊に、兄弟共同体を定期的に訪問することによって¹⁹²、その養成計画を遂行するよう

¹⁸⁶ GGCC（会憲）139:1。

¹⁸⁷ GGCC（会憲）81:1,75:1 参照。

¹⁸⁸ GGCC（会憲）138、GGSS（総則）77:1、PCO81,51 参照。

¹⁸⁹ PCO（総評議会）1981年 54 参照。

¹⁹⁰ SAO（権威の奉仕と従順）14a。

¹⁹¹ GGCC（会憲）221:1 参照。

¹⁹² RFF（養成綱領）122 参照。

に最初に呼ばれています。

彼らは自分の構成単位の生涯養成を促進し、計画する目的をもって、共同責任の精神で働き、管区会議/分管区会議、理事会、院長会議及び管区/分管区にある他の会議¹⁹³、特に生涯養成担当者の会議と率先して協力します。この交わりと協力のネットワークを通じて、管区/分管区の養成計画を共に実行することが可能です。

「管区長たちは管区会議において、生涯養成の計画が作成されるように配慮する義務があります。」¹⁹⁴

管区の養成学問担当事務局

5 1. 「養成学問担当管区書記の職務は、管区長の指揮の下に、管区における養成の全業務を促進し調整することにあります」¹⁹⁵。それゆえ、彼は「養成綱領」¹⁹⁶に記載された職務に従い、生涯養成と初期養成の連続性をふさわしい方法で促進する義務があるのです。養成（初期および生涯）に携わるすべての人の定期的な集まりを組織するのは彼の務めです。それは「本会、管区及び管区長協議会において養成の任を受けた兄弟たちが、互いに協議してそれぞれの経験を検討し合い、相互協力を推し進め、共通の基準を持つことによって、方針の一致を促進する」¹⁹⁷ためです。兄弟共同体全体の生活と使命に積極的に参加し、共通のプロジェクトを推進するために、福音宣教事務局および他の部門と積極的に協力することも、とても大切であり、役に立ちます。

¹⁹³ GGCC（会憲）137:3、RFF（養成綱領）69 参照。

¹⁹⁴ GGSS（総則）81:1, 77:1 参照。

¹⁹⁵ GGSS（総則）78:2。

¹⁹⁶ RFF（養成綱領）付録 1:1-3, 2:1-2 参照。

¹⁹⁷ GGCC（会憲）143。

管区の生涯養成調整者

52. 各構成単位に一名の生涯養成調整者がいなくてはなりません¹⁹⁸。彼は養成学問担当事務局の一員です¹⁹⁹。彼の職務は、「養成綱領」²⁰⁰に明確に規定されています。彼が他の兄弟たちや修道院長、管区の養成学問担当事務局長及び管区長と効果的な協力体制と共同責任を取りながら働くことは重要です。

管区長協議会

53. 「諸協議会間で、とりわけ近接のものの中での共通善をより大きく推進し保つために、相互の関係や情報交換、共同の研究や事業を促進する。」²⁰¹ 兄弟たちの生活、活動および生涯養成は、養成担当者との協力の下に、また、協議会それ自体の共通の基準の下に、協議会レベルで常により真剣に推進されなくてはなりません²⁰²。

会の執行部

総長

54. 総長は会において第一の養成責任者です。そして、それゆえに総長は、養成を受けるすべての当事者が提供されたプログラムを実行できるように彼らを鼓舞し、励ます義務があります²⁰³。

¹⁹⁸ GGSS（総則）81:2 参照。

¹⁹⁹ GGSS（総則）78:1 参照。

²⁰⁰ RFF（養成綱領）123 及び付録 3:103 参照。

²⁰¹ GGSS（総則）199。

²⁰² GGCC（会憲）143; GGSS（総則）192d, 200:2 参照。

²⁰³ GGCC（会憲）134 参照。

総長は個人的に、会の構成単位を兄弟的に訪問する機会に、あるいは総理事会を通じて、「フランシスカンの精神を育み、強める」²⁰⁴義務があり、また、生涯養成プログラムを推進し、確認する義務があります。

総長は、総視察者を通じて、各構成単位における生涯養成を理解することに、また、その計画や方法や当事者に、特別な注意を払い、生涯養成のプログラムが管区/分管区の会議で作成されるように配慮する義務があります²⁰⁵。

養成学問担当総本部事務局

55. 総則第75条1項に従い、養成学問担当総本部事務局は、大会や会議、その他の適切な手段によって、生涯養成調整者間の協力と対話を奨励する義務があります。養成学問担当総本部事務局長は、できる限り協議会の生涯養成調整者の会議に参加し、協議会レベルとフランシスカン家族レベルで実行される生涯養成の試みを支え、また、霊性とフランシスカニズムのセンターを支える義務があります。彼は、状況と必要に応じて、サバティカル期間を奨励することも求められます。

彼はさらに、福音宣教事務局長や総本部の他の事務局、特に、世界中の兄弟たちの生活とミッションを活性化させるために尽力している事務局との継続的かつ具体的な協力を支える義務があります。

²⁰⁴ GGCC（会憲）199。

²⁰⁵ GGSS（総則）74:1 参照。

付録 活性化のためのワークシート

はじめに

この付録に含まれているワークシートの目的は、個々の兄弟や兄弟共同体が「あなたがたは自由を得るために召し出された」という文書を読み、その内容を自分のものとするのを助けることです。

ワークシートは、生涯養成の基本的なテーマを扱う第一部の四つの章に対応するように作られています。

しかし、第二部では、生涯養成と典礼暦に関するいくつかのワークシートと私たちの間でいわゆる「エンマウスの方法論」（2006年の臨時総集会で出された文書）を生かすための一つのワークシートが提供されています。

このセクションでは、二つのワークシートを用意しました。荘厳誓願宣立後間もない兄弟たちの活性化に関するものと、高齢の兄弟たちの活性化に関するものです。いずれも目的は、そうした人生の一時期に同伴するための満足のゆく的確な養成的配慮を行うことです。

この種の文書にこのようなワークシートを付けるのは珍しい試みです。生涯養成コーディネータの第二回国際大会の要請に応えて、このワークシートは、兄弟たちおよび兄弟共同体の生活と養成を啓発するような形でこの文書を読み、理解するために、具体的なアプローチを試みるように促しています。

このワークシートは、個人として利用するだけでなく、さまざまな種類の集まり、たとえば、修道院会議、管区レベル・管区間レベル・その他のレベルの生涯養成の集まりを活性化するためにも利用することができます。

2006年臨時総集会の総括文書に述べられているように、各

構成単位は独自の計画と活動を持っています。それゆえ、私たちが提案する助言をどのように活用し、個々の可能性や状況にどう適応させるかを見極める必要があります。私たちは自分たちの多様性を認識しなければなりません。そして、小さき兄弟としてのアイデンティティーを定着させる能力とは、示された具体的な指示が会のさまざまな構成単位においてそれぞれ独自の形態と、度合いの異なる活用方法をとるものであるということに気づくことが大切です。管区の中にすでに存在するプログラムに更なる負荷をかけることを私たちは望んでいません。むしろ、私たちが成長するための助言をこそ提供したいと思っていますのです。

最後に、これから私たちが皆様に提供しようとしている資料が目指しているのは、さまざまな文化的環境にすでにある文書を消化して自分のものとし、小さき兄弟とこの兄弟会の生活全体を通じてのまことの回心の旅路である生涯養成に対する情熱と決意を絶えず眼覚めさせるように、管区（構成単位）や協議会を励ますことです。

養成学問担当総本部事務局

第一部 ー 第一章 関係性の中での個人

I. 自由への召し出し

二つの場合

A. 個人の場合

- 創世記 1:26-31 および 2:4b-7 の人間の創造の物語について考え、それに基づいて、人間を神の子として、また、自由となるべくして呼ばれている存在と考えなさい。

B. 共同体の場合

- 創世記 1 章と 2 章についてのあなたの個人的な感想を述べなさい。
- 本文 2 のどこが最も印象に残りましたか？
- 自由で、神の似姿として創られた人間についてあなたの意見を述べなさい。また、自分に当てはまらないと思われるテキストの部分について述べなさい。
- フランシスカン召命の賜物をより成熟した、自由な気持ちで体験した人生の時期について一人一人に述べさせてください。

II. 「傷ついた」自由

二つの場合

A. 個人の場合

- 創世記 3 章の人間の創造の物語について考え、それに基づいて、「肉の霊」と「神の霊」との間で板挟みになっている信者のことを考えなさい。

- 聖フランシスコの「訓戒の言葉」11と12を読み、「肉」（罪によって傷ついた「私」という人間）について、および主の霊の働きについて考えなさい。

B. 共同体の場合

- 創世記3章と「訓戒の言葉」11と12についてあなたの個人的な感想を述べなさい。
- これらのテキストの中で、最も印象に残った箇所はどこですか？
- 自分の生活体験に基づいて、人間の「傷ついた」自由について意見を述べなさい。
- 主の霊の働きに心を開くのにひどく苦労した人生の時期について一人一人に述べさせてください。

III. 成長の過程

本文4-7を読み、そのどれか一つに基づいて、フランシスカン生活における自分自身の進歩について、少なくとも一つの側面を考察しなさい。

- 4を読んで、「限界や制約がありながらも、人生のさまざまな時期を通して絶えず成長するプロセス」について話したい気分にしたのは、何ですか？
 - それは、感謝の念ですか？信頼ですか？内面の喜びですか？慰めですか？苦しみですか？幻滅ですか？失望ですか？
 - それは、どのような形であなたの召命の成長の歴史を読み、解釈する助けとなっていますか？
- 5-6に基づいて、あなた自身の修道者としての召命における成長のプロセスを読み直しなさい。

- 入会前、初期の段階、成人になりたての頃、成熟した時期、高齢者になった頃など。
- 7で読んだ次のことについて、兄弟共同体で、あるいは養成の集まりで話し合いなさい：「養成はもはや誓願宣立準備のための勉学期だけでなく、奉獻生活についての神学的な見方そのものを意味しているといえます。それは、決して終わることなく、『聖霊を通して、御子の心の状態を形作る御父の働きに参与すること』なのです」(SAFC「キリストからの再出発」15)。

第一部 一 第二章 福音としての兄弟共同体

1. 識別：靈的な知恵

神学的な方法で主と共にいるようにとの呼びかけを生きるためのいくつかの方法。

1. すっかり神と共に生きる

- 生活を神との関係の中に置く。
- 祈りと行動を区別せず、自分の願いと欲求不満のもとになっていることとを考慮に入れなさい。

2. 二つのレベルで生きる

- 主との関係の中には、一方で、しばしば祈りを左右するような先入観、感情、思考がある。たとえば・・・。
- また他方では、それよりはるかに深いところで、常に守るべき神学的態度がある。たとえば、信頼、感謝の念、神のお望みになることに自分を捧げることなど。
- 二つのレベルを分けることが重要なのではなくて、二つのレベルを、互いに照らし合わせながら、神の現存と御業に完全

に心を開く一人の人として、読みとり、解釈することを学ぶことが大切。

3. 祈りに忠実に

- 毎日個人的に神と向き合って祈らない限り、神との関係は漠然とした遠いものになってしまう。祈りが神との絶えざる関係の中で生きるものとならなければ、その祈りは不毛な交わりに陥ってしまう。
- 詩篇の祈りは日々の典礼で使われているが、祈りには個人的なものから共同体的なものまで、現在から過去にいたるまで、さまざまな状況に合わせてさまざまな種類があることを教えてくれる。私たちの全生活は神との親密な会話の中で守られ、啓発される。それだけでなく、この祈りは、神の聖なる巡礼者の常により大きな祈りに組み入れられ、御言葉の傾聴といと高きお方の賛美の中で受け止められる。

II. 慈しみの中で生きる

非裁可会則の5章と「ある管区長への手紙」を個人として、また共同体として読み直しなさい。また、会憲43条と251条（個人の生活と共同体生活の側面としての和解に関する箇所）も読み直し、それらをこの文書本文の12と比較しなさい。

- この会則と「管区長への手紙」の言っていることは、私たちの現在の個人的かつ兄弟的生活にどのくらいの光を与えているだろうか。私たちの状況について、肯定的な面と否定的な面の両面で、どんな影響を与えているだろうか。
- 会憲41条と251条および本文12の言っていることはどのように現在の私たちの個人的生活および共同体生活に組み込ま

れているだろうか。

他者との関係において小さき者であることは、他者の中に神の姿を見させ、それを受け入れさせてくれます（本文 11 参照）。

- 他者との関係において小さき者であることは、特に相互の赦し合いと受容に反映される。
- 聖フランシスコの訓戒の言葉 11 によれば、自分のために何も残しておかないために、どんな人にも怒らず、心を乱してはならないとあるが、この言葉はあなたにとってどんな意味を持っているか。一人一人が兄弟共同体における和解の体験を思い起こし、分かち合うべきである。
- 管区長または修道院長として兄弟たちの「足を洗う」奉仕を託された者は誰でも、特別な方法で兄弟たちとの関係において小さき者であることを要求される。私たちの奉仕の福音的な様式を見直そう。

✓**私たちの現実**：この分野で、私たちの共同体の長所と弱点は何でしょうか？

管区及び修道院レベルで、兄弟的な同伴、矯正、ゆるし、和解の文化をどのように発展させているかを、共通の連帯を実践することを通して見直しましょう。

第一部 ー 第三章 真の幸いを告げ知らせる兄弟共同体

I- 平和の働き手

自分たちの間で小さき者であること：小さき者として生きる第一の場は、私たちの兄弟共同体です。そこにおいて私たちは互いを受け入れ、尊重することを学びます。このことは、環境や共同体が異なれば、状況も変わるということを意味しています。紛争の種となりそうな他者に対する「優越感」について以下にいくつか述べて見ましょう。

- 安易に皮肉っぽく判断する；
- 兄弟たちに対する期待を当然のごとく表明する；
- 他者に対して忍耐力に欠ける；
- 口に出す前から、自分の意見に固執する；
- 攻撃的なコミュニケーションのとり方をする；
- グループや個人について否定的な意見を言う；
- 他人の提案に反対する；

他にもあれば、あなた自身の自己認識や兄弟共同体での体験に基づいて、上記の例文を完成させてください。

他者に対して小さき者であること：私たちは、現代人との関係において小さき兄弟として成長するために、自分が暮らす社会的・文化的環境における自分の小ささのあり方を注意深く見直すように求められています。これに関する非裁可会則の 9 章と会憲の第 64 章から 71 章までを読みましょう。

- 私たちの生活と与えられた使命における現代の小ささの側面を深く、個人として、また共同体として研究しなさい。特に、実際の具体的な文化的・社会的環境との関わりについて考えなさい。現代においてどのような具体的な策を講じることができますか？
- 私たちが生活し、働いている環境の中で、正義と平和と被造

物の保護を告げ知らせ、促進するためにどのようなことができるでしょうか？

他の文化に対して小さき者であること：私たちは、さまざまな異なる文化的背景の兄弟間で、互いに受け入れ合っているかどうか見直すように求められています。なぜなら国際的な兄弟共同体やプロジェクトにおいては、お互いを受け入れるのが難しく、また、話し方も、ある文化圏の人が他の文化圏を見下すというようなことがあるからです。

- 個人としてまた兄弟共同体として、同じ構成単位にありながら、他の文化や言語、感性を持つ兄弟たちと交わった体験談や生活を共にした体験談を読み返しましょう。そして、その良い面と限界とは何かを探しましょう。
- 自分自身の文化と異なる文化的背景を持った人々に出会い、知り、尊敬するようになったプロセスを振り返りましょう。また、自分の国に移民のいる場合を考えて見ましょう。
- 他者を、その文化の違いや豊かさを含めて受け入れ、私たちのミッションとは彼らに対して巡礼者として接することであることを改めて考えましょう。

✓**私たちの現実**：この分野における私たちの長所と弱点はなんでしょうか？

II-交わりの育成

本文18は連帯における成長、財貨の管理、私たち及び私たちを取り巻く交わりの環境の促進について述べています。

- 連帯の視点で財貨を管理することについての教会の社会教説

を最新のものにするよう励ますことによって；

- 兄弟共同体の中で、建物や金銭、時間、能力などの形で自分に委ねられたものを貧しい人々にお返しするための具体的な方法を考えることによって；
- 私たちの置かれた状況や選択を「奉獻生活」89に照らして読むことによって。どのようなことが良い面と問題点として浮かび上がって来ますか？どのような変化を私たちの具体的な兄弟生活に取り入れることができるでしょうか？

本文18は、会則の意図に従い、小さき者としての生活に占める労働の位置について述べています。「主が働く恵みをお与えになった兄弟たちは、忠実かつ献身的に働く」（裁可会則 5:1）。この言葉は聖フランシスコの遺言に基づいています：「私はまた、自分の手で働きました。そして今も働くことを望みます。すべての兄弟もふさわしい仕事に従事するよう、切に望みます」（遺言 20）。

- 私たちの仕事の様々な側面を考えなさい：
 - －神からの無償の賜物である「恵み」としての側面
 - －神学的な意味合いでの「忠実さ」の側面
 - －典礼的な視点から見た仕事への「献身」の側面
- 生涯養成において、「働く恵み」に向けての教育はどのように促進できるかを、私たちを取り巻く具体的な現実と状況を踏まえて考えなさい。
- 小さき兄弟として、どのような仕事を選びますか？「保障された」仕事か、それとも「小さき者の」仕事か？
- 仕事を選ぶ時、兄弟生活との兼ね合いをどの程度重視しますか？

貧しい人々や最も小さき人々の状況をよく知り、それを分かち合いなさい。そして、「働く恵み」を再発見し、深めるように努め

なさい。そのためにはどのような選択が必要ですか？

✓**私たちの現実**：この分野における私たちの長所と弱点はなんでしょうか？

第一部 ー 第四章 兄弟共同体：神の国の種子

I ー兄弟共同体：福音宣教の家であり学校

非裁可会則 16 を他者へと向かう巡礼者としての使命という視点から読みなさい。重い皮膚病を患った人に接吻したこと、スルタンとの面会、罪人への憐み、さげすまれた人への愛、など。

- 本文 22 に照らして、現代の文化環境での他者との出会いとしての福音宣教というものをどう理解するべきか考えなさい。
- 私たちはめまぐるしい変化の時代に生きています。この状況を個人として、また兄弟共同体として、どの程度認識しているか考えましょう。

ー変化に直面した時の私たちの反応はどんなでしょうか？

ネガティブな反応とはどんなものでしょうか？恐れ、孤立、攻撃性、過去への郷愁、

現実からの逃避、など。

ポジティブな反応とはどんなものでしょうか？至福感、開放性、関わりたいという熱

意、など。

ーナザレのイエスに示された御父の愛という福音をすべての被造物に告げ知らせるよ

うにとの招きに、私たちはどのように取り組んだらよいか？

拒絶、ごまかし、委任、などによってか？

関わりたいとの熱意、実現感、信頼感、などによってか？

会憲 83-88 条を、本文 11 と 12 に照らし合わせながら、個人で、また共同体として読みなさい。

- 福音宣教の第一の形態は兄弟的な生活です。召命を生きるという喜びに満ちた体験は伝播性のものであり、出会うすべての人々に問題を投げかけるのです。私たちの兄弟生活の重要性をよく考えましょう。
- 小さき兄弟は世界と人間に対して開かれた積極的な精神を身に着け、福音を率直に礼儀正しく、すべての人を尊敬しながら告げ知らせます。私たちの司牧活動と宣教活動のありかたを、個人で、また共同体として考えなさい。

✓私たちの現実：この分野における私たちの兄弟共同体の長所と弱点はなんでしょうか？

II-対話の中で

会憲第 95 条と本文 23 を読み、次のことを考えなさい：

- 他のキリスト教徒である兄弟姉妹たち及び異なる文化や宗教的信条を持つ人々との出会いと対話に対する私たちの態度について個人で、また共同体として考えなさい。
- 多くの小さき兄弟たちが異宗教間の緊張の中で暮らしています。フランススカンの小さきにふさわしいあり方です。こうした状況の中に生きるこれらの兄弟たちを生涯養成を通じて同伴すること、そして、それ以外のすべての兄弟たちが、特に平和の促進という観点から諸宗教間の対話に求められている現

実と挑戦に気づくことが、前にもまして必要となっています。

✓**私たちの現実**：この分野における私たちの兄弟共同体の長所と弱点はなんのでしょうか？

第二部 ー 第一章 日常生活

ト エンマウスの方法論

「兄弟たちはどこにいても、またどこで出会っても、互いに同じ家族の者であることを示し、一人は他の一人に自分の必要をためらうことなく打ち明けるべきである」（裁可会則 6:7-8）。

- 2006年の臨時総集会から出てきた最も重要な要素は、「エンマウスの方法論」です。私たちは会話と識別のこのプロセスを、私たちの第一の優先課題として紹介します。主イエス・キリストの足跡に従う兄弟として分かち合う、人間としての私たちの生活と信仰生活の両方に触れる事が必要です。方法論としてこのプロセスは、私たちの生活と仕事にしばしば傷跡を残す個人主義と孤立化の克服を進める事が意図されています。それと同時にさらに重要なことがあります。それは、私たちが祈り、生活、仕事において神体験を分かち合うしつかりした文脈の内に、自分自身を霊的に置き直すことができるように、このプロセスが意図されているということです。この方法論は私たちの生活の様々な多分野—例えば初期養成と生涯養成、本会のあらゆるレベルの兄弟共同体生活、そして私たちの仕事や信徒と共にしている奉仕職においても応用されるでしょう。その論理的根拠とプロセスは、総括文書「主は道々わたしたちに話して下さる」の本文で十分に説明されています。私たちは各共同体に、小さき兄弟としての成長の

鍵となる礎として、この「エンマウスの方法論」を考慮し、実践して下さるようお願い致します。（「主は道々わたしたちに話して下さる」49:1）。

述べられているプロセスは単純ですがとても重要です。

- 出会うこと、
- 起こったことについて話すこと、
- 福音書を共に読み、分かち合い、会則を読み直すこと、
- 祈り、「神のすべての賜物のゆえに」神を賛美すること、
- 兄弟としての交わりを祝うこと、
- 私たちの生活を変えてくれた福音を携えて、兄弟共同体の兄弟たちのもとに、全世界の兄弟姉妹のもとに立ち返ること。

- 私たちは「エンマウスの方法論」を修道院レベル、管区レベル、協議会レベルで発展させることによって、また共にキリストに従い、神への信仰を深める事を可能にするその他の手段を通して兄弟である事の喜びと苦勞を分かち合い、個人的な召命について内省しなければなりません。この方法論を適用する事によって私たちは、修道院レベル、そして管区や協議会レベルの様々な集まりでの神のみ言葉との対話において、聖体祭儀の中で、そして様々な人間関係や日常生活において兄弟的な分かち合いの学び舎となり、また、祈りと回心の学び舎ともなる事ができるのです。管区長や院長はこのプロセスに重要な役割を持っています。この会話の方法は小さき兄弟としての私たちのアイデンティティーの一部とならなければなりません。例えば、以下のような場面でそれが実践できるでしょう：

- 初期及び生涯養成において、
- 新しい兄弟が兄弟共同体に入ってきた時に、
- 定例の修道院会議において、

- 記念祭の時に、
- 私たちが働いている場で信徒と一緒に集まる時に、
- 召命に深い関わりのある場所への巡礼の機会に、
- 管区会議のために集まる時に、
- 私たちを取り巻く文化や社会の変化に応じて私たちの使徒職や現状を評価する時に、
- 本会の協議会及び合同協議会のレベルで、
- 2009年に備えるための（この臨時総集会をモデルとした）特別集会において、
- 兄弟共同体における和解と癒しのプロセスにおいて。
（「主は道々わたしたちに話してくださる」51）

II-兄弟共同体で神の御言葉を祈りを込めて読むこと

兄弟共同体のことを踏まえて、フランスカンの調子で神の御言葉を祈りを込めて読む方法（レクチオ・ディヴィナ）をざっと思い返してみることは有益でしょう。また、2006年の臨時総集会で出された「エンマウスの方法論」の次の言葉を思い起こすことも役に立つと思われます：

基本的なプロセスは単純ですが、すべて根本的なものです。1）出会うこと、2）起こった事柄について話すこと、3）福音の分かち合い・会則の再読、4）すべての恵みに感謝し、賛美し、祈ること、5）兄弟的交わりを行うこと、6）わたしたちの生活を変容させた良い知らせを携えて、兄弟共同体の兄弟たちと全世界の兄弟姉妹たちの所に戻ること。（2006年臨時総集會総括文書45）

準備

レクチオ（御言葉の黙想）の最初の時間は、傾聴するために心の準備をすることに充てられます。それゆえ、レクチオを始めるにあたって、沈黙の時間を設け、次のことを行うと良いと思います：

- 考えたり、注意深く話に耳を傾けたりしやすい姿勢を探す；
- 心配事や気が散るようなことから心と頭を解き放つ；
- 聖霊の賜物を共に、時間をかけて祈願する。聖霊だけが私たちの心を清め、照らし、燃え立たせてくれ、福音の言葉と私たちとの対話に入ってください。イエスという生きたお方の御言葉に耳を傾けて生きることを可能にしてくれる。

神の御言葉を読み、傾聴すること

レクチオの次の時間には、単純で清い心をもってテキストを読みます。それは、

- 聴いた御言葉の全体的な意味を理解するためであり、
- 何らかのふさわしい方法で自分の理解度を確かめるためです。

神の御言葉の内面化と吸収

- レクチオの第三の時間には、抜粋した箇所全体の意味をまとめたキーセンテンスを暗記するとよいでしょう。暗記した言葉をその日一日、あるいは「集中的な時間に」心に留め、私たちの中に根付くようにします。
- 抜粋した箇所が表現していることの重要性とそれが意味している生活での実践について時間をかけて沈黙のうちによく考えることも必要です。私たちの中に、また兄弟共同体の中に見られる抵抗感を突き止め、改善すべき点を見極めなければなりません。
- フランシスカンの伝統に関する文献を思い起こすことによっ

て、私たちのカリスマを個人として、また兄弟共同体としての考察に組み入れ、福音書の内容を現代に適用させるために、いつもフランシスカンの源泉資料を参考にできるようにします。

お返しすること

レクチオの最後に、聖霊のうちにいただいた神の御言葉を神に「お返しする」とよいと思います。

- 主への**賛美の祈り、感謝、祝福、嘆願、祈願**を通して。
- 何かに取り組むことを約束するとか、習得しようとする態度、果たすべき提案などを明らかにすることを通して。「お返し」としての生活の約束は、主が私たちに提案してくださっていること、つまり、「主よ、私に何をお望みですか」との問いかけに対する主の御言葉を聞くことによって、生まれます。

NB：これらの段階の詳細については、兄弟ホセ・R. カルバリヨの「御言葉に導かれて意味を乞い求めるものたち」

(Mendicants of meaning, led by the word, 2008年聖霊降臨の祝日の手紙 25-30) をご参照ください。

III- 生涯養成と典礼暦

典礼暦は日常的生活条件の中で誰もが手に入れることのできる教育旅程表として示されています。小さき兄弟と兄弟共同体の時には意味があり、自己の成長の活力を、その中心となっている出来事の土台の上に見出します。すなわち、人となられた御言葉であるイエス・キリストが私たちのために死んで、復活され、御父の右に座し、そこからご自分の霊と賜物を全人類に注いでくださるということです。

- 典礼暦の中で具体的に**季節のリズム**は、一つのプロセスとしての生涯養成の深い意味を表しています。このプロセスは個人とか組織によって考え出されたものでもなければ、管理されているものでもなく、「季節のリズムを変えて」、そのリズムの中に御自身の愛の神秘をお現しになる御父のプロジェクトによるものです。それゆえに生涯養成は、一つの機会とか、即席のプロセスとか、私たちの努力の結果として見るべきものではなく、むしろ、恵みとして、御父のご計画による無償の賜物として見るべきものです。
 - こうした考え方に照らして、あなたが属している管区／構成単位では生涯養成とその具体的な提案に対する感度はどの程度のものかを個人で、また共同体として考えなさい。
 - 典礼暦の季節のリズムは、どうすれば、より活力に満ちて効果的な生涯養成のプロセスを支え、同伴できると思いますか？
- **典礼暦**はこのように、独自の養成内容を表しています。典礼暦は、時をキリストの神秘を中心として考える役に立ちますし、典礼暦の各季節を生きるに際して、祝日を絶えざる驚きと安心感とで祝う役に立ちます。こうした教育的プロセスの価値は、すべてが散漫になり、賞味期限がやたらと早く切れてしまう時代においても、なくなってしまうわけではありません。
 - こうしたことを考慮に入れて、典礼暦の祝いを個人として、また共同体として評価しなさい。典礼暦は「他者」のためにある祝祭日のカレンダーなのか、それとも、神の民と共に生きる私たちのための生涯養成の真の適切な教育プロセスとなる祝いの時なのか。
- 主の復活の記念であり、聖霊のうちにキリストを通して御父

に感謝と供え物を捧げる聖体祭儀は、教会、すなわち、現代に旅する神の民の生活の中心です。聖フランシスコは兄弟たちに対し、兄弟共同体の聖体の恵みを、宣教に出かける小さき者たちの福音生活の中心であると言っていました。

- こうしたことを考慮に入れて、兄弟共同体のためにとって置かれ、すべての兄弟の参加を得て、共同の祈りとしてまた一致のしるしとして行われる聖体祭儀の時とやり方と頻度について、個人として、また共同体として評価しなさい。
- 神の御言葉とフランシスカンの源泉資料に耳を傾け、しばらく静かに聖体を崇め、賛美と感謝を捧げることには注意を払いながら、聖体礼拝を再開する具体的な可能性について個人として、また共同体として考えなさい。
- ゆるしの秘跡は、頻繁に個人としても共同体としても行われるならば、兄弟たちを主なる神と、自分自身と、共同体と、そして人々との和解に導くものとなります(会憲 33:1 参照)。そして、絶えざる回心へと、さらには和解と平和の使命を果たすようにと導いてくれるのです。
 - 神の御言葉に耳を傾け、御父の憐みに全幅の信頼を置いて行われたゆるしの秘跡は、私たちの信仰生活と主の弟子としての生活においてどのような位置を占めているかを個人として考えなさい。
 - このゆるしの秘跡を共同体で、また神の民と共同で行う具体的な可能性について共同体として考えなさい(会憲 33:3 参照)。

✓**私たちの現実**：これら4つの分野における私たちの兄弟共同体の長所と弱点はなんでしょうか？

IV- 生涯養成と時課の典礼

特に時課の典礼は、それを埋める時のリズムと構成が整然とした形になっています。そのおかげで、キリスト者の生活における時の神秘が明らかにされ、過ぎ越しの神秘が彼らの生活の中心にあることが分かります。いくつかの段階を考えて見ましょう：

「キリスト者の祈りは、キリストの復活の神秘という素晴らしい信仰の出来事をもとに生まれ、育ち、成長しています。ですから、朝に夕に、日の出とともに、そして日没とともに、復活という死から生命への主の道のりが思い起こされたのです。キリストのシンボル、すなわち「世の光」は夕の祈りの間、灯の中に現れ、それゆえにルチェルナリオ（ランプ）とも呼ばれます。それに対し、聖務日課の時課は主の受難の物語を思い起こし、三時課はさらに復活祭後の第七主にあたる聖霊降臨をも思い起こします。そして寝る前の祈り（終課）は、主人が帰ってくるのを待って目を覚ましていなさいとのキリストの勧め（マルコ 13:35-37 参照）を思い起こさせる終末論的な特徴を持っています。このような配列は全体的に詩篇を引用する自然な習慣を形成します。」（ヨハネ・パウロ 2 世、2001 年 4 月 4 日の謁見の際の講話「詩篇に見るキリスト者の日課のリズム」）

- 時課の典礼の祈りは、全教会の名で行われるものであって、個人的な利益のために行うものではありません。この祈りにおいて、私たちは自らを日常生活の中で御父の聖霊によって同伴されるようにするのです。御父の霊は知性の目と心の目を照らし、多くの兄弟姉妹の苦しい出来事に同伴して下さいます。そして、彼らを御父に引き合わせて下さいます。
- 会則によれば、時課の典礼の日々のリズムは、生涯養成のプロセスのまさに活力となるものです。それは、神との親しい

交わりへと通じ、日々の仕事の中で一定の秩序を与え、教会とのもっと本物の一体感を育むように導いてくれます。

- 時課の典礼をどのように行うべきか、その創造性、リズム、神の民との分かち合い、祈りの糧などについて、個人として、また共同体として考えなさい。
- 時には信徒と共に、時間をかけてじっくりと神の御言葉に耳を傾け、それについて祈ることに専念することの可能性を、個人として、また共同体として考えなさい。その際、伝統的なスタイルのレクチオ・ディヴィナ（神の御言葉の黙想）を「主の芳しい御言葉」に対するフランシスコの愛と調和させることが大切です。養成学問担当総本部事務局がこの目的のために出版したすべての文書が役に立つことでしょう。たとえば、「祈りの献身の精神」、「勉学と考察のためのテーマ」（2001年ローマ）、兄弟ホセ・ロドリゲス・カルバリョの2008年聖霊降臨祭に寄せた手紙「御言葉に導かれて意味を乞い求める者たち」など。

✓**私たちの現実**：この分野における私たちの兄弟共同体の長所と弱点はなんでしょうか？

第二部 ー 第三章 生涯養成の手段

1- 荘厳誓願宣立後間もない時期の生涯養成

この時期の特徴

- この時期の小さき兄弟は、通常、次のような人間的特徴を示します：
 - 自分のアイデンティティーがより明確になり、兄弟共同

体の一員としての自覚が深まるにつれ、自己実現を望む傾向が強まる。

- 小さき兄弟として、神の国の建設に協力する自己の個人的な能力を試したいと願っている。特に、管区の兄弟共同体と使徒職に全面的に関わり、兄弟生活と活動に対して完全に責任を負うことを通して（奉獻生活 70 参照）。
 - 第一段階の目標が達成されたことにより、自己に対する肯定的な意識が次第に芽生え、それは、管区の生活に参加し、兄弟共同体、教会及び職業的な環境の中で権威に奉仕する責任を担うようになったことにより、成長します。
- リスクの要素もないわけではありません。たとえば：
- 莊嚴誓願宣立直後の時期が過ぎると、「生活が習慣化する危険があり、成果が十分上がらないため失望に陥る誘惑が生じることがあります」（奉獻生活 70）。時には内面的な熱意が薄れたり、形を変えたりすることがあり、妥協する傾向や、凡庸さを受け入れる傾向、極端な活動主義や一種の二重生活に走る傾向がみられます。
 - この時期は兄弟は、他の人々と同じように、人から肯定されたいと思うようになります。肯定されなかったりすると、召命や情緒の面で、また共同生活や実生活の面で危機に陥る可能性があります。このような危機は、アイデンティティーの喪失を誘発し、様々な代償を求めるように仕向ける危険をもたらします。たとえば、過度の飲酒、過度の喫煙、I T機器に過度にのめり込む、個人主義的な自由時間や金銭の使用、情緒不安定、権威に対する反発など。
 - 自己肯定がうまくいっている場合でも、小さき兄弟は情緒面で、あるいはもっと深いレベルで、危険に陥る可能性があります。たとえば、それまで自分がやってきたす

すべてのことに意味があったのかと疑問を感じるなど。同様の状況において、その兄弟は同伴者の援助に頼ることもできます。そのような状況も、きちんと直面するならば、キリストに従うようにとの第二の呼びかけに対する応答となり得ます。この段階は一部の兄弟にとっては困難な局面と言えるでしょう。

そのようなとき、本人は自分を人間的、キリスト教的、フランスシスカンの視点から、生き方の面で「参考となるような人物」となっている兄弟たち、それゆえに、他者の召命の成長過程において励みとなるような兄弟たちと比較することができることが大切です。

✓構成単位（理事会、管区事務局、管区の養成事務局長、荘厳誓願宣立後10年以内の兄弟たちのグループ）のレベルで、こうした現実問題をよく検討し、あなた方の体験している現実に光を当てなさい。

✓この時期に見られる良い面や問題点にどの程度気づいているか調べなさい。

この時期の生涯養成

人間的な側面

- この段階の小さき兄弟の性格は、自分自身の選択を全面的にしかも具体的に引き受ける傾向があり、自分自身の人間性や人間関係の特徴を徐々に定義づける傾向がある。
- 感情の世界には、移行期と成熟期があり、また、たとえ後退はしなくても停滞期がある。それらの時期には初期養成のころにははっきりと認識されたり、現れたりしない側面が現れる。これらの危機は、特に心を個人的な同伴において開くこ

とにより、チャンスとして、また恵みとして受け入れるべきである。

- 個人的な側面と兄弟共同体の側面の間のバランス、特に孤立しないでチームワークで協力する能力については、慎重な注意が必要である。

✓ 莊嚴誓願宣立後 10 年以内の兄弟のための養成計画における諸側面を発展させるための方法を探しなさい。

キリスト者としての側面

- 奉仕職や使徒職に献身的に関わる態度を育むことが大切です。それは、特に個人として、また共同体として福音書と小 さき兄弟たちの生活と会則に耳を傾けることを通して、イエス・キリストへの基本的な忠誠心を深めることによって可能です。
- 教会の使命に深く関わるためには、特に福音宣教のあり方を刷新することが求められている時代においては、普遍的で地域に根ざした教会に対して心を開きつつ、教会の中で、主任司祭や信徒や他の奉献生活者との情愛のある実際的な交わりが必要です。
- 勉学期間を終えたら、自分で勉強し、知識を吸収する自己鍛錬の必要性を教えることが大切です。その際、個別に読書したり研究する計画を立てるようにし、その計画が単に機能的に実行されるのではなく、過去の歴史や文化に対する知識や出会いを深めるものとなるようにすべきです。

✓ 莊嚴誓願宣立後 10 年以内の兄弟たちのための養成計画においてこの側面を発展させるための方法を探しなさい。

フランシスカン・カリスマの側面

- 小さき兄弟は、知識レベルで、兄弟的な福音生活への刷新された忠実さの重要点を再確認する必要があります。
- 本会がたどっているプロセスと本会の普遍的かつ宣教師の側面に対して注意を払うことを、本会の文書や手引書を読むことによって学ぶべきです。
- 会憲第四章の仕事、連帯、エコロジー、貧しい人々の生活条件とその分かち合いなどについて、深く研究しなさい。
- 次のことは役に立ちます：
 - フランシスカンの源泉資料やフランシスカンの伝統の神学的・霊的な遺産を深く研究するために、また、具体的な構成単位において実現されていることを研究するために、時間と方法を提供する；
 - 個人として、また共同体としての祈りや霊操のための時間と、生涯養成のプロセスためにふさわしい場を「とっておくこと」。

✓ 莊嚴誓願宣立後10年以内の兄弟たちのための養成計画においてこの側面を発展させるための方法を探しなさい。

養成のための同伴

莊嚴誓願宣立後10年以内の兄弟たちが同伴と比較の可能性を得て、兄弟たちの友情を感じることができるよう、特別な注意を払うことが養成担当者に求められます。教会と会の本部からの指示によれば、兄弟たちの生涯のこの時期に対しては、その管区内の各地の修道院への受け入れと通常の活動を通して、特別な注意が払われなくてはなりません。この種の同伴については特にこうでなければだめということはありませんが、各構成単位レベルで、あるいは管区間レベルで次のようなことを提供する必要があります。

ります：

- 定期的な集会を含む**年間行事**。これらの集まりの目的は、そのプロセスでの喜びと苦しみを分かち合い、兄弟的な友情を体験し、兄弟的な生活と奉仕と使徒職にふさわしいテーマと活動に参加することです。
 - 具体的な兄弟共同体や任命された使徒職を考慮に入れた**個人的な同伴の計画**。そのような計画書には、真に効果的で個人的な生涯養成にふさわしい挑戦と主な活動が含まれていなくてはなりません。
 - 具体的な兄弟共同体や使徒職の目的を考慮に入れた**個人的な同伴の計画**。そのような計画書には、真に効果的で個人的な生涯養成のための挑戦と主な活動が含まれていなくてはなりません。
 - **様々な使徒職と福音宣教活動に参加させること**。これは、これらの分野において十分に活動ができるようになるためにであり、勉強したことが必ずしもそのまま司牧活動や宣教活動に役立つ道具となるわけではないことを考慮に入れて、同伴と評価を行うことが必要です。
- ✓ 莊嚴誓願宣立後 10 年以内の兄弟たちの同伴の方法と内容を考えなさい。
- ✓ 莊嚴誓願宣立後 10 年以内の兄弟たちの養成を担当する兄弟たちが提供する同伴のあり方と種類を考えなさい。

II- 高齢期の兄弟のための生涯養成

この時期の特徴

- ここ数十年の間に平均年齢は上がり、生活の質も向上してきましたが、そのことは、画一的に論ずることはできないとしても、また、問題がないわけではないとしても、兄弟たちの

生活にも当てはまることです。国や地域によって差はあるものの、今日では高齢期は非常に長くなっています。

- ペースが徐々に落ち、「職務の交代」も頻繁になっているとはいえ、活動は続いています。経験の豊かさとそれによる本質的な喜びは、良い意味で、この時期の特徴です。
- 様々な身体的・心理的な変化が見られます。自分の殻に閉じこもるようになったり、他者に心を閉ざすようになったりする場合があります。自分のことを「やった」ことによって判断しがちな人は、不安感に襲われやすく、鬱に陥ったり、自分は「役立たずだ」とか「置いてきぼりにされた」とか感じることがあります。
- 他方、時間の使い方や活動の選択が大幅に自由になり、それを楽しんでいる人も少なからずいます。
- それまでの段階をやり遂げたことにより穏やかな境地に至る人は多いですが、挫折感を味わう人もいます。前者の場合では、兄弟は新たな充実感をもって奉獻生活を送りますが、後者の場合は、何事に対しても、また誰に対しても、辛辣になったり、批判的になったりする危険があります。

進化して行く時期の養成の賜物と義務

人間的な側面

- 人生のこの時期を自分と兄弟共同体全体に与えられた賜物として受け入れるように彼らを同伴します。人生のこの時期を成就と新たな出発と考えることは、もちろん奨励すべき素晴らしいことです。
- このような視点で、人生の第三段階を対象とした特定の読書や頻繁な研究会を行うことによって、この時期の特徴を理解することが奨励されます。衛生面に気を配り、生活と食事、

休息と運動などの適切なリズムを維持し、自分自身のためだけでなく、他者への奉仕のための時間管理を行い、芸術面やその他の個人の才能を伸ばし、コミュニケーション能力を高めることは大切です。

- 身体的・精神的な病気の時や、心がすさんでいる時、親しい人を亡くした時、人間関係に問題がある時、激しい誘惑や信仰の危機やアイデンティティーの危機に直面している時、自分の存在が無意味だと感じている時などに、人間的で兄弟愛に満ちた同伴を行うことはとても重要です。
- 高齢の兄弟を孤立させないために、また、若い世代や熟年世代の兄弟に高齢の兄弟の経験や知恵を伝えるために、世代間の人間関係の豊かさも重要です。また、世代間での交流によって、高齢にさしかかっている人が限界を認め、若い世代の人が生活が難しくなっている人たちの弱さや病気、死などに直に接する機会を与えられます。

✓この年齢の人々のための養成計画において、特にこの側面を向上させる方法を考えなさい。

キリスト者としての側面

- この年齢にある人の生涯養成のプロセスは、キリスト者としての人生の美が完成に向かうという体験を可能にするものです。これまでイエスの弟子であり、御父に忠実であったという記憶が、自分のことや他人、自分の仕事のことに悲観的になりがちな人に光を与えてくれます。人をゆるすことにさらに寛容になることから、自分の過去や古傷と和解することによって、私たちの内なる霊の働きの実り、すなわち、喜び、善意、柔和さなどを受け入れることが可能になります。

- 年輪を重ねるにつれ、喜びや成功が訪れますが、それと同時に失望や困難、身体的・心理的な試練、病気、不快なこと、挫折にも遭遇します。それらも同様に、生きるために死ぬようにとの招きなのです。日常の出来事の中で神にすべてを委ねる体験をすることによって、肉体の死を受け入れることができるようになります。大切なことは、これらの状況を「心理的な」苦しみとしてのみならず、日々神の現存と十字架の力が支えてくれる「宗教的な」苦しみとして捉えることなのです。

✓この年齢の人々のための養成計画において、特にこの側面を向上させる方法を考えなさい。

フランシスカン・カリスマの側面

- 他の修道会の人々や自分の兄弟共同体の中で若い兄弟たちの模範となるような平和と喜びと信頼を証ししている人々との交流などを通して、現代世界に心と精神を向けるように励ますことは大切です。それによって、フランシスカン独特の使徒職、祈り、在り方、模範、他者への思いやり（特に兄弟や、貧しい人々や高齢者たちへの）、幸福感が深められるでしょう。
- この年齢の兄弟たちは、病気になる可能性が高く、それは、「姉妹なる死」を迎え入れる準備となります。病気になった兄弟は、病める聖フランシスコの模範にならい、御父の愛の御摂理に信頼して身を委ねつつ病を生き、病を賛美の歌に変えることによって、苦しみと不安を受け入れなくてはなりません。

✓この年齢の人々のための養成計画において、特にこの側面を向

上させる方法を考えなさい。

養成のための同伴

人生のこの時期における養成のための同伴は特に、高齢の兄弟たちに対する尊敬と感謝を示すものであるべきです。なぜなら、彼らは私たちの兄弟会の忠実さと記念の生きた証しとなり得るからです。

- 彼らには、祝日や記念日に集まる機会を提供し、そうした集まりで、おしゃべりを楽しんだり、これまでの出来事や信仰体験を分かち合ったり、本物の人間的な交流ができるように計らいます。晩年を迎えた兄弟たちの若い兄弟たちとの集まりは、養成面で大きな価値があります。そうした集まりの折に、兄弟各人は他者から次のようなことを学ぶのです：忠実さと記念の遺産を受け継ぐとか、フランシスカン生活が生きて生きと続いているという実感を得るなど。
- 兄弟共同体と養成担当者は、この年齢の兄弟たちの生活状況や孤立していないかなどに特に注意を払い、その年齢なりの有用な役割があることを自分で発見できるように彼らを助ける必要があります。
- 高齢の兄弟や病気の兄弟を受け入れる看護室や修道院は、兄弟共同体として病気の兄弟に対する愛と深い配慮を表現する場とならなければなりません。このような場に同じ共同体の他の兄弟たちが関われるような養成の機会を探すべきです。
- 小さき兄弟が「姉妹なる死」に出会う個人的な「復活」の時は、自己奉獻と御父の腕に完全に身を委ねる体験の極致であり、それゆえに、特別な注意深い態度で接する必要があります。兄弟共同体は、このようにして、現代文化の典型とも言える、死からの逃避というリスクを回避することができます。

第二部 一 第四章 生涯養成の手段と場所

1- 院長の養成

この文書では、院長の職務を「足を洗う」ことであると定義しています（本文48参照）。生涯養成の主な目的の一つは、院長職に就く兄弟たちを支えることです。それは、彼らが必要な能力を習得し、発展させることによって、信仰という側面でその職務を全うするためです。このように、院長は、人間関係や対話を促し、分かち合いや協力の能力を育み、独特の使命を受け入れ、これらすべてを現実の日常生活の中で評価することによって、地域修道院を内側から支えることができます。

それゆえ、院長は兄弟共同体の「上」に立つものではなく、内にいるものなのです。院長の養成期間中は、特に一人の小さき兄弟として傾聴と受容と関わりの態度を身につけるように導くことが必要です。それこそは、基本中の基本であり、日常生活に必要なことであると同時に、有能であるための手段です。

構成単位（管区）や協議会で考えるべき院長の生涯養成の分野

人間関係の分野、ぜひとも習得すべき能力

人間関係の分野で次のような能力を向上させるようにすることは、院長の生涯養成に役立つと思います。

- 積極的に耳を傾け、人と関わり、争いごとを調停する能力；
- 人間関係を改善するために、コミュニケーション能力と、兄弟間のコミュニケーションを促進する能力；
- 人間的な成熟という観点から見た時に「問題のある」兄弟た

ちを把握し、彼らを支える能力；

- 兄弟共同体と主観主義との間のバランスを高める能力；
- さまざまな世代の兄弟（若者、中年、高齢者）を支え導く能力。

国際的な共同体や多文化が共存する共同体の院長を養成するに際しては、そのような共同体に特有の豊かさや問題点が認識できるように、特別な養成を施す必要があります。

兄弟共同体生活の分野

兄弟共同体生活と兄弟生活の段階的な発展を促すという分野で、次のような能力を向上させるようにすることは、院長の生涯養成に役立つと思います。

- 下記のことを通して、地域修道院での生涯養成を向上させ、支える能力；
 - 共同の祈りと養成に関して、それが「習慣化」して退屈になるのを防ぐために、祈りと献身の精神を大切にすることによって；
 - 養成的な意味合いを込めて、日常生活（祈りの生活、仕事、レクリエーション、修道院会議など）を改善することによって；
 - 正式な集まりの場（祈り、修道院会議、黙想会など）を設け、それを生き生きとしたものにするによって；
- 修道院会議を活性化させ、次のような場とする能力；
 - 兄弟的生活のプロジェクトを作成し、実行し、評価することによって、分かち合いと計画の場とする；
 - コミュニケーションと兄弟的矯正の場とする；
 - 奉仕と宣教、財貨の管理などにおいて共同責任を学ぶ積極的な教育の場とする。

- 兄弟共同体の兄弟たちの成長を支える能力；
 - コミュニケーションやニーズ、個人の状況に気を配ることによって；
 - 個人の生活プロジェクトを作成し、実行し、評価することを奨励することによって；
 - 兄弟たちがユーモアのセンスと現在行っていることに対する情熱を失わないために、兄弟間に陽気な雰囲気醸し出すことによって。
- 地域内の他のフランシスカン家族（コンヴェンツアル会、カプチン会、TOR（律修第三会）、在世フランシスコ会、クララ会、コンセプショニスト、フランシスカン霊性を大切にする兄弟姉妹たちなど）のメンバーとフランシスカン・カリスマを分かち合うことを推進する能力。

個人として自分自身に問うてみること

- 権威ある職務に就いた兄弟に対する自分の態度はどうだろうか？協力と対話の姿勢があるだろうか？それとも、無関心？あるいは、わざと静かに反抗を示しているだろうか？対立的だとしたら、それはなぜか？
- 聖フランシスコは「愛徳に満ちた従順」（訓戒の言葉3）について語っていますが、それは自分にとってどういう意味を持つだろうか？また、今の自分の生活をどのように照らしてくれるだろうか？
- 兄弟たちとのコミュニケーションの分野で一番大きな困難は何だろうか？
- コミュニケーションはさまざまなレベルで行われる。話しのきっかけとしての皮相的なコミュニケーション（たとえば、スポーツや天気の話など）とか、深い（自分の価値観や信念について話す）そして親密な（自分の体験や感じたことを

話すなど) コミュニケーションがある。兄弟共同体の兄弟たちとの自分のコミュニケーションは普段どのようなものだろうか？

- もし自分が今権威ある職務に就いているとしたら、主から託された兄弟たちとの関係においてそれをどのように実践しているだろうか？この職務にふさわしくあるために、どのように自己教育を施しているだろうか？
- 困難な時や誤解が生じている時にどのように対処しているだろうか？一人で静かに？兄弟共同体の外部に避難？それとも、管区長や兄弟たちと対話しながら？
- 修道院会議をどのように過ごしているだろうか？傾聴と対話の精神で過ごしているか？キリストのうちに一つに結ばれた兄弟共同体を築こうとしているか？不安を抱いているか？幻滅を感じているか？過度な期待を持っていたり、人と争ったりしていないか？どんな気持ちを抱いているか？また、その気持ちをどのように処理しようとしているか？

共同体として自分自身に問うてみること

- 修道院レベル及び管区レベルで、管区共同体や分管区共同体は、どのように兄弟たちに活性化の責任を担わせるようにしているか？
- どのような基準で、そうした責任を担う兄弟を選んでいるか？
- 修道院レベル、管区/分管区レベルで、活性化の責任を担う兄弟たちに対する権威の職務を行使するにあたり、兄弟たちからどのような協力が得られているか？
- 兄弟共同体の生活を活性化するにあたり、共同責任の意識を高め、実践するためには、どのようなすれば、また、どのような手段を使えばよいだろうか？

推薦図書

- 「共同体における兄弟生活」1994年、奉献・使徒的生活会省
「奉献生活」1996年、ヨハネ・パウロ2世の使徒的勧告
「権威の奉仕と従順」2008年、奉献・使徒的生活会省
「あなた方はみな兄弟」第三部「フランシスカン共同体の活性化」、
2002年、養成学問担当総本部事務局。

**あなたがたは自由を得るために召し出された
小さき兄弟会における生涯養成**

翻訳・発行：フランシスコ会日本管区

発行日：2010年9月10日

106-0032

東京都港区六本木 4-2-39

聖ヨゼフ修道院

03-3403-8088